

史料 久慈浜の漁業

日立の水産 歴史篇3

本資料は、財団法人日立市水産振興協会（日立市産業 経済部農林水産課内）が1991年3月に発行した『日立の水産』第7号（特集久慈浜の漁業）に掲載された「Ⅱ 近代久慈浜漁業の歴史」を再編集したものである。農林水産課の職員で『日立の水産』の編集を担当した数藤和義さんに誘われて、編集の一部（歴史部門）を当時日立市郷土博物館に所属した島崎和夫がお手伝いした。今となっては、追加すべき史料や説明が必要な事項もあろうが、32年前の仕

事をそのままにここに紹介する。日立市域において、かつて水産業（漁業と加工）は今では想像できないほどに重要な意義をもっていた。しかし研究はきわめて少ない。その点で本資料が研究の進展になにかしら役に立てるのではないか。これが今回、本資料をまとめなおした動機のようなものである。

（2021年12月 島崎和夫）

目 次

久慈浜漁業の近代史 3

はじめに | 漁獲の推移 | 漁船の動力化 | 久慈川と漁港整備

1 史料にみる久慈浜の漁業

(1) 概 況 4

- 史料1 明治24年12月 久慈村渡辺庵太郎らによる漁業税改正建議書
- 史料2 明治43年10月 久慈町の不況報道
- 史料3 大正元年12月 久慈町の現況報道
- 史料4 昭和5年7月 久慈浜海水浴場開場祝賀広告
- 史料5 昭和7年10月 昭和恐慌下の久慈町匡救策報道
- 史料6 昭和12年2月 漁業資材高騰下の久慈浜
- 史料7 昭和13年12月 久慈町漁業協同組合結成報道
- 史料8 昭和戦前期 各種水産業関連団体概要
- 史料9 昭和戦前期 久慈町水産業関連会社

(2) 漁 況 7

- 史料10 明治24年12月 イシモチの大漁報道
- 史料11 明治39年8月 カツオ漁報道
- 史料12 明治44年4月 マグロ漁報道
- 史料13 大正元年6・7・11月 石油発動機船によるカツオ漁報道
- 史料14 大正元年11月～2年10月 サンマ漁報道
- 史料15 大正2年2月 久慈町大正元年度最高漁獲者表彰報道
- 史料16 大正2年9月 石油発動機船によるカツオ漁報道
- 史料17 大正8年5月 久慈町大正7年度最高漁獲者表彰報道
- 史料18 大正13年11月 茨城県内サンマ漁報道
- 史料19 大正15年11月 久慈浜イワシ・サンマ漁報道
- 史料20 昭和4年11月 久慈浜サンマ漁報道
- 史料21 昭和8年7・8月 久慈浜イワシ・カツオ漁報道
- 史料22 昭和9年12月 茨城県下イワシ漁報道
- 史料23 昭和15年2月 久慈浜イワシ豊漁報道
- 史料24 昭和16年1月 久慈浜鰯揚繰船の漁獲報道
- 史料25 昭和17年3月 久慈町漁業協同組合昭和16年度漁獲高報道
- 史料26 昭和17年8・9月 久慈浜カツオ豊漁報道
- 史料27 昭和17年11月 久慈浜鰯揚繰漁報道
- 史料28 昭和18年12月 久慈浜鰯揚繰網漁報道
- 史料29 昭和19年2月 燃料不足下の久慈浜鰯揚繰網漁
- 史料30 昭和19年12月 減船下の鰯揚繰網漁報道
- 史料31 昭和20年5月 久慈町三代商店経営の大謀網漁報道

(3) 振 興 11

- 史料補遺 大正元年8月 茨城県下漁船改良（発動機据付）進捗状況報道
- 史料32 大正2年2月 久慈町に機関手養成所開設報道
- 史料33 大正2年6・7月 漁船動力化資金貸付決定報道
- 史料34 昭和5年3月 久慈浜漁業功労者山県熊之介・三代芳松・小沢久米八事蹟紹介報道
- 史料35 昭和8年9～12月 久慈漁業組合の深海棧船底曳網漁試験実施報道
- 史料36 昭和9年6月 カジメ採取とアワビ漁の対立報道
- 史料37 昭和12年1月 機船底曳網漁全廃反対運動報道
- 史料38 昭和12年7月 鰯揚繰網漁の制限撤廃要望報道
- 史料39 昭和19年8月 戦時下の久慈浜鰯揚繰網漁報道

(4) 久慈浜と漁港整備 13

- 史料40 明治39年8月 久慈川増水による河口開削紛争報道

史料41	明治41年 6 月	久慈河口改修工事完了報道	
史料42	明治42年	久慈町・坂上村漁船遭難報道	
史料43	大正元年 8 月	久慈浜船溜場建設計画報道	
史料44	大正元年 9 月	久慈川増水による久慈町と港の被害報道	
史料45	大正元年 9 月	久慈河口におけるカツオ漁船転覆事故報道	
史料46	大正 2 年 9 月	久慈川増水による河口砂洲決潰報道	
史料47	大正 2 ～ 3 年	久慈港県費支弁港編入請願運動報道	
史料48	大正 5 年12月	久慈河口でのサンマ船座礁事故報道	
史料49	昭和14年 8 月	久慈港釜坂沖合新設促進運動報道	
史料50	明治40年～大正13年	久慈町遭難漁船記録	
(5) 流通および加工			15
史料51	昭和 6 年12月	久慈浜小舟出荷組合創立報道	
史料52	昭和 9 年12月	久慈浜イワシの販路先報道	
史料53	昭和10年 2 月	鰯粕競売結果報道	
史料54	昭和11年 4 月	鮮魚取引紛争をめぐる水戸地裁判決報道	
史料55	昭和15年 9 月	久慈町海産物行商商業組合結成報道	
史料56	昭和 9 ～12年	久慈町水産業関連工場	

2 久慈浜の漁業統計

(1) 概 況			19
第 1 表	明治41～昭和25年	久慈町漁業戸数・漁業者数の推移	
第 2 表	明治41～昭和25年	久慈浜の漁船の推移	
第 3 表	昭和戦前期	久慈町の主要漁業	
(2) 漁 況			22
第 4 表	明治41～昭和25年	久慈町漁獲物総額	
第 5 表	明治41～昭和25年	久慈町漁獲高価額	
第 6 表	明治41～昭和25年	久慈町漁獲高数量	
(3) 流通および加工			28
第 7 表	昭和 6 ・ 9 ・14年	久慈浜活・鮮魚貝類の移出	
第 8 表	昭和 6 ・ 9 ・14年	久慈町主要水産加工品	
第 9 表	昭和 6 ・ 9 ・14年	久慈町及び市内その他主要県内漁村の水産加工	

久慈浜漁業の近代史

はじめに

江戸時代、日立市域で漁が行われていた村を北からあげてゆくと、川尻・折笠・田尻・滑川・会瀬・河原子・水木・久慈の8か村である。江戸後期、文化5年（1808）7月から翌6年6月までのそれらの浜における漁獲高に応じた税金高〔漁獲高の誤り〕を示すとされる史料が、残されている（『日立市史』410頁）。それによれば、久慈村の漁獲高（税金高）は、8ヶ村中4位で、河原子・会瀬村の4分の1、川尻村の3分の1、水木村とほぼ同じ程度であった。

漁の不安定さもあるので、この1年間の数値をもって各浜の漁業規模を決めつけるわけにはいかないが、江戸時代後期の久慈浜の漁業が、少なくとも日立市域で圧倒的な優位性をもっている現代とはだいぶ趣を異にしていることはたしかである。ちなみに上記8か村の漁業規模について村高と戸数を考慮にいて、大まかに規模順に配列してみると、河原子―川尻・会瀬―久慈・水木―田尻・滑川―折笠という順になろうか。これはめやすである。史料による跡づけが必要である。

江戸時代後期、市域漁村中、中位の規模にあった久慈浜の漁業がいつ、どのようにして大規模になっていったのだろうか。私の関心の一つはそこにあるのだが、明治期全般の史料が必ずしも十分ではないので、本章では新聞資料や統計資料がそろった明治末期以降太平洋戦争下までのさまざまな資料を紹介する。

漁獲の推移

明治末から昭和戦前期までの漁獲物総価額の推移をみると（第4表 120頁）、大正8年の飛躍的な数値の伸びに目がとまる。年間10万円台であった明治末期に対し大正8年以降14年までは、60万～90万円台の高い額を示している。大正元年から大正7年までの間は、増減をくりかえしつつしだいに額を大きくしている。これは大正8年の飛躍を準備している時期と位置づけられよう。昭和元年以降は減少・停滞の傾向にあり、16年には再び増加し、130万円と100万円を突破する。しかしこの傾向が続くのか一時的なものかは、それ以後の統計資料を欠いており不明である。

なお、明治末の漁獲物総価額を豊浦町（川尻）と比較してみると、豊浦町の明治41～43年の年間平均は7万円弱、これに対し久慈町の場合は13万円となり、倍近いひらきが表れている。先述したような江戸後期における位階関係は、明治末期にはすでに逆転しているのである。

以上のような、漁獲物総価額の動きを魚種別価額・数量にみてゆこう（第5・6表 121～125頁）。第一に、大正8年の総価額の飛躍的な増加は、イワシ・カツオ・マグロ・タイの伸びに影響されたものであること。とくに価額構成上以前よりもっとも比重の高かったカツオの伸びによるものであった。第2に大正期前半の漸増傾向は、サンマ・カツオ・マグロそれぞれが2、3年で入れ替わりながら単独で大きな伸びを示したことによるものであること。第3に大

正期後半の順調な増加傾向は、イワシ・カツオ・マグロ・タイ・ヒラメ・サンマなど主要魚種全般の伸びによるものであること。

ところで明治末から大正期を通じて魚種別価額で第1位だったカツオは、昭和2年に入ると価額・数量両面において減少をはじめ、かわりにサンマにとってかわられた。そのサンマも昭和5年にはイワシに首位の座をゆずることになる。カツオは昭和9年以降はまったくといってよいほど漁がなくなってしまった。イワシは昭和10年に久慈浜漁獲物総価額の8割を占めるまでに増大した。表に示した明治末から昭和戦前期、この期間の久慈浜の漁獲物の動きは、昭和初期を境にしてカツオからイワシに移ったと要約できよう。ちょうどこの時期は従来のいわし揚繰網漁業に三代芳松によって二艘旋機揚繰網漁法が考案されたとき（大正15年2月）である。たしかに大正期後半、年間3万貫台であったイワシの漁獲量が昭和2年には16万貫、3年には60万貫、6年には100万貫を超えており、三代芳松考案の改良漁法の影響をみてとることができる。

漁船の動力化

久慈浜における漁船の動力化の動きを第2表久慈浜の漁船の推移（20頁）によってみてゆこう。

漁船総数としては明治末から減少傾向にあり、昭和恐慌下の5～8年に底をみせて、以後増加傾向がみえる。その内容を見ると、無動力船の昭和初期までの減少、昭和恐慌期を底に以後若干の増加があるにしてもほとんど動きがない。この無動力船は小型化が進み、昭和9年には5トン以上の船がみられなくなってしまった。

かわって動力船（発動機船）が、明治44年初めて統計に登場してからその2年後の大正2年には一挙に30隻近くに増えた。そして大正末から20トン以上の大型の船が現われ、昭和初年にかけて急速に普及していった。大正2年2月21日付の『いはらき』新聞紙上に、久慈町漁業組合長山県熊之介宅で、2月20日に機関手養成所の開所式が挙行されたという記事が掲載されている（史料32）。また同年6月と7月にあわせて6人の久慈町の漁業者に対し、県から「補助機関据付」の経費に充てるための「漁業低利資金」貸付決定がなされている（史料33）。これらは前述した大正2年に動力船が急速に増えていくことの、資金面、技術面での裏づけとなった。

ところで、漁業組合長の山県熊之介は漁船の動力化に熱心で、自ら動力化に先鞭をつけた。山県は大正元年カツオ漁に発動機を採用し、好成績をあげた。これにより発動機船は急速に普及したという（史料3・13）。また、従来「ギス曳網（あるいは打瀬網、手繰網）」と称して、和船を以て沿岸の砂底を選んで操業していたが、動力船が普及するにつれてサンマ漁終了後、翌年夏のカツオ漁までの間、マグロ流網に出漁しない休業船を利用することに山県や磯浜の大川らは着目し、大正2年動力船をもってギス曳網漁を行い、好成績を収めた。これが機船底曳網漁業の始まりで、同業者が続出したという（『茨城の水産』昭和15年版）。

さらに大正8年には三代芳松が動力による曳網撈揚機を考案し、機船底曳網漁業の発展に拍車をかけた。しかし旧来のギス曳網・手繰網・打瀬網漁業者との対立、あるいは乱獲の弊害が全国的に生じ、国は大正10年9月「機船底曳網漁業取締規則」を制定し、動力付漁船による底曳網漁を知事の許可制とした。その後も乱獲による沿岸漁業との対立は深刻となり、昭和5・7年に法の改正が行われた。ここでは県許可から国許可制へ、操業許可から起業許可制へ、禁漁期間・区域の設定という改正を行い、機船底曳網漁業の抑制策をうちだした。昭和9年、新規定の制定と同時にトン数の縮減による整理方針を明らかにし、12年に「機船底曳網漁業整理規則」および「同整理転換奨励規則」が公布され、減船・転換が行われた。

茨城県でも昭和13年2月に茨城県機船底曳網漁業整理水産組合が設立された。そこでは組合設立時の船数30隻・484トンを9年間で12隻・292トンに減船させることとした。残存船は15隻290トンとされ、この中に久慈浜の船は含まれておらず、すべて整理・転換の対象となった。その一つ、昭和15年度に整理・転換を計画された渡辺栄太郎経営の大祥丸（19トン）は、メヌケ・タイ延縄漁業とサンマ・マグロ流網漁業へ転業を予定された（『茨城の水産』昭和15年版）。久慈浜の機船底曳網漁業はこうして、昭和6年の23隻から9年の18隻、14年3隻と規模を縮小していった。この機船底曳網漁の制限政策に反対する久慈町の動きは、史料38・39にうかがえる。

久慈川と漁港整備

久慈川は太平洋に出るところで北に向きをかえ久慈小学校の南で海に注いでいた。川向こうにある砂嘴を向渚とよんでいた。久慈川が増水すれば、この河口部分での蛇行のためにその上流で流れはとどこおり、洪水被害が起りやすかった。洪水対策としては向渚を開削して海に直流させればよいのだが、久慈河口への流水がなくなり、河口部分を港としていた久慈町の漁民にとっては漁船の航行が困難になる。そこで古くから久慈の漁民と上流の洪水地帯の農民とで向渚の開削をめぐる対立を惹き起こすのであった。『日立市史』には、明治23年、43～44年、大正2年の久慈河口開削（変更）紛争が述べられている。本章にはそれらとは重複しないよう新聞記事を選び収録した。

河口への漁船の出入りには危険がつきまっていた。史料50に久慈町「事蹟簿」に記録された漁船の遭難事故をすべて掲げた。ここに記録された遭難事故44件のうち32件、8割弱が久慈河口での事故である。幸いなことに死傷者は

きわめて少ない。この表のうち大正元年9月と大正5年12月の事故の模様について新聞報道を史料45・48に収録している。

こうした漁船出入港時の危険性、久慈川洪水対策、そして大型船導入の隘路となっていた久慈港、その新設問題について、また、大正・昭和戦前期の久慈河口防波堤整備に関して新聞記事を若干掲げておいたが、『久慈漁港史』（久慈町漁業協同組合他編 1983年刊）が漁港の整備状況その他久慈浜の漁業について詳しく述べているので、あわせて参照されたい。

本書の「1. 史料にみる久慈浜の漁業」では新聞記事を中心に、「2. 久慈浜の漁業統計」では久慈町「事蹟簿」を柱に近代久慈浜の漁業の動きを追った。

なお本書には収録しなかったが、本巻の元版である『日立の水産 第7号』に川島優「久慈町漁業実態調査報告」が収録されている。この川島の調査は昭和27年になされ、茨城県水産部編・発行『茨城県漁業経済調査報告』（1953年）にまとめられたものである。とりわけ久慈浜における二つの漁協の存在にスポットをあて、分析を行っている優れた報告である。

史料・統計を利用する前に

史料の収録にあたっては、縦書きを横書きにした他は原文の形式を残すようにつとめたが、適宜読点を入れた。また表にした際には印刷の都合上若干形式を変えている。

統計の収録にあたって、「事蹟簿」の数値と他の資料、例えば『茨城の水産』の数値とでは、同じものを扱っていても大きな差異がある。『茨城の水産』は県商工水産課の独自調査によるものである。「事蹟簿」は各市町村役場が土地・戸口から産業・教育・兵事・町財政など町勢全般にわたって作成、記入を県から義務づけられたものである。しかし「事蹟簿」の記入はたいへんな作業であって、町村の調査体制はそれに追いつけず、その記載内容は完全なものでなかった。昭和戦前期について『茨城の水産』と比較してみると、いずれも「事蹟簿」が内輪の数値を記している。対比できる箇所はそうした点をふまえて利用されたい。「事蹟簿」については、明治末からのこれほど多項目の長期にわたる統計を外に見いだせないこと、大きな変化を読みとるうえでは支障ないと考えられることから、疑問の数値があってもそのまま掲載し、利用に供することとした。

1 史料にみる久慈浜の漁業

（1）概 況

史料1 明治24年12月 久慈村渡辺庵太郎らによる漁業税改正建議書
漁業税改正建議書
久慈郡久慈村の渡辺庵太郎氏、多賀郡坂上村の佐藤欣一郎

氏、外那珂郡東茨城郡・鹿島郡の各業者連署を以て漁業税改正建議書を印刷して議長に差出しかは、去十二日各員に配布せらりたり、其建議書は左の若し

（前略）夫レ漁業ナル者ハ、常ニ一葉ノ扁舟ニ駕シ洋々タル万里ノ波濤ヲ冒シ、来往獲魚ノ衛ヲ施スニ非サレハ其業ヲ全フスル能ハサルモノナルカ故ニ、其事業ノ危険ナル農

工商ノ若キモノト同日ニ論シ得ヘキモノニ非サルナリ、凡ソ冒険ノ事業タル他ノ当業者ニ比シ数層ノ利益アルモノニシテ、其ノ業ノ改良進歩ニ伴フテ利益モ亦タ累加スルハ自然ノ通利ニシテ、敢テ言ヲ要セサルナリ、然ルニ我々漁業者ノ如キ極メテ艱難ヲ冒シ実業ヲ営ムモノナルニモ拘ラス彼ノ通利ノ範圍ニ浴スル克ハズ産ヲ破リ業ヲ廢スルモノ日ニ月ニ多キヲ加フルモノハ何ソヤ是レ□年ノ不漁其一ニ在リト雖職トシテ税法ノ宜シキヲ得サルニ因ルモノト言ハサル可ラス、其理由ハ現行漁業税法タル旧藩主力漁業者ニ特別保護ヲ与フルノ当時施シタル税率ヲ基トシ課税スルモノナルカ故ニ保護ヲ与ヘサルノ今日ニ在テハ幾多ノ改正額為スモ他ノ營業税ニ比シ課税ノ荷重ナル又タ免カレサルノ数ナレハナリ、故ニ其資本ニ於ケル他ノ工商業者ヨリ多額ヲ要スルニモ拘ハラス、其税額ニ至ツテハ之レニ倍蓰スルモノアリ、今其一例ヲ挙クレハ鰹漁ノ如キ即チ是ナリ、那トナルハ該業タル漁具ノ修復漁夫ノ給料等一艘ニ費スルモノ三百円以上ニシテ、之レニ月税ヲ加フルトキハ一季ノ漁獲三百円アルモノトスルモ、月税ニ不足ヲ告ケ妻子ヲシテ餓莩ニ泣カシムルノ慘状ヲ呈スルニ至レハナリ、夫レ大洋ハ無尽ノ宝庫ニシテ奈何ニ漁獲ノ慾ヲ逞フスルモノアルモ鱗族ニ尽クルコトナキヲ以テ実業ノ発達進歩ニ伴ヒ其收穫ニ於ケル益々多キヲ加フ可キモノナリト雖、若シ之ヲ障害スルモノアラン乎、無尽ノ宝庫ハ以テ之レニ属スル銷鎔ヲ失ヒタルト同一ノ現象ヲ呈シ、彼ノ税法ノ不完全ナルト課税ノ苛重ナルトハ専ラ之カ障害タル可キヲ信スルナリ、夫レ税法ノ不完全トハ奈何苛税トハ奈何試ニ之レヲ論センニ彼ノ漁業税ノ如キ最モ税法ヲ失セサルモノト云ハサル可ラス、何トナレハ現行月税ナルモノハ季節ニ依テ漁獲ヲ営ムモノニ課スルモノナルニ由リ当業者ハ其季ニ接スルモ苛税ヲ厭ヒ之レカ鑑札ヲ受ケサルノ習慣ナルカ故ニ会々魚類ノ近海ニ來ルコトアランカ周章狼狽鑑札ヲ受ケントスルモ郡衛ニ至ラサレバ如何トモナス能ハス、郡衙遠隔ノ地ニ在ル漁業者ハ該鑑札ノ為メニ時日ヲ空フシ終ニ漁獲ノ機ヲ失ヒ、言フ可ラサル損害ヲ招ク者アルハ既往ノ事蹟ニ徴シ知ルヲ得可ケレハナリ、之レ咸ナ税法ノ不完全ナルニ原因セル結果ニシテ漁業奨励ノ道ニ反スルノミナラス斯業ヲシテ益々衰頹ノ域ニ沈マシムルモノト信認仕候、之レ税法ノ改正ヲ望ム其一ナリ

且ツ繩船漁ノ如キハ二人乗り迄一艘ニ付金壹円以上一人ヲ増加スル毎ニ又壹円又増加ストアリ、而シテ該繩船漁ノ實際ヲ見レハ二人乗三人乗ノ如キハ極メテ小許ニシテ五人乃至七人乗りヲ多シトス、現今ノ税率ヲ以テ此税額ヲ算出セハ一艘ニ付金四円乃至六円ノ苛税ヲ出ササル可ラス、故ニ小数ノ乗組員トシ会々多数ヲ乗組マシムルコトアルモ其人員相当ノ税金ヲ出サスシテ課税ヲ免カル、モノアリ、是レ税法不完全ノ二ナリ、今日ノ税率苛重ナレハ上來陳述スルカ如シ今彼ノ税率ニ比スルニ彼ハ大抵千分ノ四五ニシテ、此ハ百分ノ五六ニアリ、其營業具タル漁船ノ如キハ国税ヲ負担シ又之ニ地方税ヲ賦課セラル、ノミナラス器械税ト称スル重税ヲ負担セサルヲ以テ今日ノ漁業者ハ三重ニ等シキ苛税ヲ担フニ至レリ、且ツ加フルニ累年ノ不漁々民ノ困難ニ陥ル因ヨリ怪ムニ足ラサルナリ

今ニシテ之レカ救済ノ策ヲ講スルニ非レハ五郡□海ノ漁業者ハ白舎ニ炊烟ヲ絶スノ慘況ヲ呈シ、無尽ノ漁獲ヲ失フニ至リ、洵ニ慨嘆ノ限リニ御座候、依テ我々共協議之上漁民休養ノ第一トシテ税率法ノ調査ヲ遂ケクリシニ改正ノ結果ハ単ニ漁民ノ困苦ヲ救済スルニ止メスシテ、脱税者ヲ未前ニ防キ収税ノ幾分ヲ増加シ、一挙兩得ノ実アルコトハ別表ヲ以テ知ル可シ、伏テ願クハ閣下庵太郎等ノ建議ヲ容レ當議會ニ於テ之レカ改正ヲ実行セラレンコトヲ、頓首再拜

(『いはらき』明治24年12月15日付)

史料2 明治43年10月 久慈町の不況報道

久慈町の不景氣

引き続いての不景氣は近来一層其の度を高め、当地の漁夫等は連日の雨と不漁との為に船にも乗れず、今日の暮らしにも困難なりとて、草鞋脚伴に身を堅め久慈河口工事の人夫と化け、弁当持参で日々繰り出し居り候、殊に憫れなるは遭難溺死者の遺族にて、稼業もなく只空しく餓に叫ぶ有様に御座候、独り繁昌せるは質屋ばかりにて、蟻の如く其店前を出入りする黒き影は絶間なく見受けられ候、夜の寂しさは又格別にて、各料理店の酌婦等は生欠伸を鵜呑みにして只茫然たるばかり、焼芋を袂に忍ばす杯の贅沢は思ひも寄らず、十日に一度の髪結銭にさへ差つかへ、常から青い顔を更に色揚げしたる觀有之候、当町役場にてても何とか挽回策をと心配致し居るやうなれど、差当たり持ち合せの知恵袋も御座ないものと相見え候、不景氣が高じて泥棒菌が発生してはならじと樫村巡査は碌々夜の眼も寝ず、嚴重に警戒致し居り候、御職掌柄御苦労の事に御座候

(『いはらき』明治43年10月22日付)

史料3 大正元年12月 久慈町の現況報道

久慈町の現況 共進会開催地たる

別項掲載の久慈郡農会主催農産物共進会主催地たる久慈町は久慈川口に沿へる県の所在地水戸市を距る六里五丁、太田町へ二里三丁本県屈指の漁業場にして町民の多くは漁業を以て業とす、農にして商を兼ねるもの之に次ぎ、久慈郡の東端に其位置を占む、東方一帯太平洋に面し地形尖頭南北三十丁東西二十五丁土質粗土にして水田少さも灌漑の便宜しく、海岸線は本町西北を通じて大甕停車場に達する十八丁余、南は久慈川を隔てゝ東小沢村大字留、坂本村大字茂宮に接し、北は多賀郡坂上村大字水木に隣す、町の位置たる行戸高阜下浜は平坦にして第十五号国道陸前浜街道は字大甕を通ず、人家稠密市街をなし、漁船としては千葉県房州銚子一帯より本県各浜、北は福島県四ツ倉、久の浜、小名浜、相馬の漁船常に出入す、県道は当町を起点とし南は坂本村を経て東京街道あり、北は大甕停車場を経て平潟町に通ず、久慈川は町の西南を圍繞して海に注ぐ、水浅くして大船を艤す可からざるも漁船の出入便利なり、本町は往古より常陸国久慈郡に属し明治五年区戸長の制に依り第二区十四の小区に属し、同十一年郡区改正に依りて隣村南高野村と共に一聯合となり、同十七年区域改正に際しても亦二ヶ村を以て一の行政区となす、明治廿二年四月一日町村制施行の際従来の区域たる元南高野と分離し一村をな

し、廿七年二月五日県令第十号を以て久慈村を久慈町と改称し、其後は分合又は区域名称の異動なし、水産物は需用日に増加し、毎年鯉節製造の伝習所を開設し、製造法に熱心改良の結果販路大に拡張、市場に声価を挙げるに至れり、目下取引上の重なる地域を挙げれば常陸・両毛・武蔵一円、長野・東京・横浜・神奈川・松戸・浦賀各枢要地、関西地方は大阪・神戸・駿河の各都市、北は福島・平・二本松・白河郡山・仙台・岩手八戸等なり、由来本町民は人情風俗の頗る質朴にして、町政は年を追ふに従ひ増加し、諸般設備は年毎に完備す、試に明治廿二年町村制実施以来の戸数人口比較表を掲ぐれば左の如し

年	戸数	人口
四十二年	八二五	四三〇九
四十三年	八三四	四三六九
四十四年	八四四	四四二九

右比較表を見るも本町の如何に発展しつつ在るかを想像し得べし、信用ある組合は第一、茨城県水産組合久慈支部、漁業組合、漁商会等にして山県支部長は良く漁業の発展を計り、本年鯉漁期より石油発動機船の有効なるを説き、自から率先して発動機船を利用したるに其結果頗る良好なれば支部評議員沢畑熊太郎氏又足れを購入し使用を始めたより、目下にては機械船七艘の多きに達せり、故に本県沿岸漁業の発展は目下各地の競争となり居るが、久慈町の如きは川口工事の如何によりては県下に類なき漁業地となるは遠きにあらず、漁民の内職としては先年前町長五来半之介氏の企画に成る漁網の原料安価供給の方法あり、引続き永井商店と協力して漁網用原料の条縄等を廉価に販売しつつあるより同町利益一方ならず、又五来郵便局長は去る四十二年同町有志と協議の上六百余円の寄附を集めて四十四年三月より開通したるより同町にては電信あり電話あり商業発展上実に益する所尠なからず、局長代理五来瀬平氏は藤田及び其他の局員と協力して良く親切に事務を取扱ふより非常に好評なり、久慈河口問題は良く県民に知られ居る所なるが、去る四十年起工の際藤咲県技師の提案にて一万四千円を投じ竣工せし所防波場は去る四十三年八月十日の水害に依り多少の破損を見たりしが、目下の場所は暫時復旧しつつあり、尚は数万金を投じて永久的の工事を成す暁には東海岸有数の漁港となるは勿論近海の便尠なからざれば久慈町は河口に依つて盛衰を左右せらへるべく是非共是れが永久的工事を遂行されたしと町民は熱望し居れり

(『常総新聞』大正元年12月8日付)

史料4 昭和5年7月 久慈浜海水浴場開場祝賀広告

祝久慈浜海水浴場開設

久慈郡水産会 会長渡辺吉郎平

久慈町漁業組合 組合長飛田朝吉、理事渡辺巳之吉、同渡辺栄太郎、同山県季次、同渡辺吉郎平、監事額賀孝次、同飛田八兵衛

久慈魚市場

茨城製氷会社 久慈浜工場

久慈海産商組合 組合長宇佐美幸之介、副組合長田所啓之介、同三代惣吉

久慈浜大謀網小林組 漁業・海産問屋小林勇三郎 本店岩手県上閉伊郡箱崎港

海産業・大謀網・採鮑業 飛田勘太郎

鮮魚樽製造 照沼安蔵 野上卯之太郎

海産物問屋 五来新吾衛門 宇佐美幸之介

久慈町会議員(議席順) 飛田勘太郎 川崎実之助 五来新吾衛門 渡辺勇吉 宇佐美幸之介 石川善之助 宇佐美半次郎 川上福次郎 五来岩吉 渡辺善三郎 川崎丑松 山形忠左衛門 五来顕一 額賀松之介 山県季次 沢畠末松 田所午吉 五来孝顕

(『常総新聞』昭和5年7月15日付 抜粋)

史料5 昭和7年10月 昭和恐慌下の久慈町匡救策報道

前途を憂慮される久慈漁港の不振 港湾修築を頼りに自力更生策に腐心

最近久慈浜における海産物は不漁続きのため各当業者は勿論一般関係者は意気消沈し、若しこの儘でいけば同漁港の前途も甚だ憂慮すべきものがあるといふので目下その対策に腐心してゐる、過般も五十集組合から宇佐美幸之介、五来新吾衛門、三代惣吉の三氏が出県の上水産課に現状を具陳し、何等かの匡救策を講じられたいと申出たが、現在秋刀魚漁期に当り資金難と殊に久慈川口の不完全なため船舶の出入に多大の支障を来し、継続事業である港湾修築の完成を唯一の頼りとなし、僅に一艘の望みを托している有様で、漁業組合における成績の如きは漸次進展しつつある、右に就いて渡辺組合長は語る

港湾の修築は目下進捗しているが、これに依つて曙光を見出さんとした矢先きの不況で全く目もあてられない、これは不漁で採算がとれぬ結果船主も資金欠乏に陥つてゐるので差しあたり自力更生のみでも容易でないから何とか匡救策を樹てる外あるまい

(『いはらき』昭和7年10月10日付)

史料6 昭和12年2月 漁業資材高騰下の久慈浜

悲喜交錯する漁都 あぐり漁業に凱歌上る

悪性インフレから常磐線唯一の豊漁王国久慈浜漁場の漁業者は、その生命となる諸漁具材料や燃料油の暴騰するのに反し、中小漁業者の収入は不漁と魚価低落から減る一方で黒字は忽ち赤字に変わり、

昨年末頃までの活況はどこへやら今日は全く悲鳴をあげてゐる

漁具材料の奔騰は昨年末に比しオモリ用の鉛の七八割高を筆頭に網地五割、ロープ四割、燃料油は一割三分、軽油一割、マシン油八分といふ暴騰振りをしているに反して

鯛、ひらめ、ほうほうの漁獲を主とする底曳漁船は今頃が盛漁期であるに拘らず、潮流の異変が取つくしたのかトンと不漁である、普通ならば不漁時には魚価が騰るのが通例であるのに、逆にドンドン下落する奇現象を呈してゐるため、昨年末頃までは一般平均二百円の収入に対して、今日ではせいぜい百円から百二三十円に減じ、乗組漁師の分配金や諸経費を差つ引けば一銭も残らなくなった、殊に沖曳

漁船に至つては漁に出れば却つて損をする有様で、かうした悲観的狀態が永續すれば休業の続出することとなるので、久慈浜漁業株式会社では他の漁場の同業者と共に再三県当局及び中央主務省へ涙の陳情をしてゐるのに、これに反して一方あぐり漁業者は素晴らしい上景氣を現出して、諸漁具材料、機械類の狂騰もなんのそのドコを風が吹くかとばかりドシドシ新造船の無条約時代を演じてゐるのがおもしろい現象は、このほど久慈町漁業会社々長渡辺吉郎平氏と同社員の三代清七氏が漁獲高のレコード争ひが原因で、遂に渡辺社長は永年腰を据ゑてゐた社長の椅子を投げ出したが、その陰にこんな話がひそんでゐる、毎年最高の漁獲高を示した渡辺氏は今年も十一万円余の数字を上げたが、三代氏は十一万五千円となった、ところがこの数字には誤算があり、何れに優勝旗が授与されるか興味ある朗らかなナンセンスが生まれた、一方同町底曳漁業家の飛田勘太郎氏は久慈町水産商業組合から七千円の納入金を不納にして、これを同氏等の経営漁業へ投資してゐるといふので、べ粕六百廿四俵を十五日押へられたといふ悲喜交々の情景を描き出して高物価時代の異風景は、一ツ浜に嘆きと笑ひの交響樂は高らかに奏でてゐる

(『いはらき』昭和12年2月18日付)

史料7 昭和13年12月 久慈町漁業協同組合結成報道

久慈漁業協同組合を結成 将来を期待する

久慈町漁業組合は従来実績上らずバランスシートは常に赤字を現してゐたが、この影にひそむ癌を除去してこのほど一大改造を行ひ、久慈水産株式会社を合併し頗る強力な久慈町漁業協同組合を結成し、左の如き同町第一流の青年実業家を役員に選定したが、役員中の重なる人物は県下第一位の業績を挙げてゐる久慈町水産商業組合の幹部を総動員してゐるだけに、各方面からその将来に期待をかけられをゐる、宇佐美組合長は就任と同時に同組合事務所が狭隘を感じ非能率的であるので直に増改築し、事務員全員個々別々の服装では非活動的であるとなし、自ら数百円を投げ出し国防色の正服を新調して与えたので僅の月給では思いながら造られずに居た事務員連は福の神を迎へたと大喜びである、因に代表組員氏名左の通り

組合長宇佐美松兵衛、理事渡辺喜郎平、同渡辺勇吉、同五来新五衛門、同三代利七、同田所初太郎、同星野政之允、同三代庄兵衛、同渡辺惣七、同三代吉之允、監事田所啓之介、同渡辺□、同川崎欣太郎、同飛田重吉、同五来靖定

(『いはらき』昭和3年12月8日付)

史料8 昭和戦前期 各種水産業関連団体概要

[16頁に別掲]

史料9 昭和戦前期 久慈町水産業関連会社

[16頁に別掲]

(2) 漁 況

史料10 明治24年12月 イシモチの大漁報道

石脳魚の大漁

去る十九日久慈郡久慈村沖合に石脳魚の群集したるを発見し、同村漁業競ふて乗り出し、三日間にして捕獲の数頗る夥多なりといふ中に就て同村渡辺氏の持船は他の漁船に比して捕獲の数頗ぶる夥多なりと聞きしが、蓋し同氏が予て□網を工夫改良したるを這般施用たるに依るなりとす

(『いはらき』明治24年12月27日付)

史料11 明治39年8月 カツオ漁報道

久慈浜の鰹漁と相場

一兩日前より毎日一万尾位の鰹漁獲あ□目下相場は大物一尾三十二三銭、並物二十四五銭位なるが、近々大漁あるべき見込みにて漁夫共は却々の意氣込みなり、因みに鰹節は上物一貫目二円八十銭、並物二円五十六銭にて、荒粕は一貫目三十銭位なりと

(『いはらき』明治39年8月8日付)

久慈浜の鰹大漁

昨今久慈浜二三里の沖合に鰹の群集すること夥しく、漁三日前より出船せしものは夕刻迄に一艘にて二千尾乃至三千五六百尾の漁獲あり、価格は廿五銭より十七八銭位にて、一艘の金高四百円乃至八百円に達するを以て船主の喜びは勿論町民の潤ひ一方ならざる由、かく鰹群の陸に接近し来りしを以て之を陸上より望見すれば恰も海戦にても観るが如く壯観言ふかりなしと

(『いはらき』明治39年8月18日付)

史料12 明治44年4月 マグロ漁報道

久慈浜の鮪大漁

久慈郡久慈町明神町船主渡辺巳之介鮪船は去る三月卅一日出帆し、久慈沖合に於て大鮪一尾二十貫以上のもの十五本を捕獲し三十一日帰帆、販売したるに総金七百餘円に上れるように大に喜び居れりと

(『いはらき』明治44年4月6日付)

史料13 大正元年6・7・11月 石油発動機船によるカツオ漁報道

第一号稲丸の大漁

久慈郡久慈町山形熊之介氏の新造に係る石油発動機鰹漁船第一号稲丸は、十四日池貝式汽罐の据付を終り即日同港出港出帆、千葉県銚子港沖合に向け出漁し、翌十五日鰹七百餘尾の漁獲あり、銚子港に入りしが、同船は十六日より引き続き出漁中なりと

(『いはらき』明治45年6月19日付)

久慈浜の鰹漁

久慈郡久慈町漁業組合長山県熊之介氏所有に係る石油発動機鰹漁船第一二稲丸の鰹漁獲高を聞くに、第一稲丸は六月十四日より本月一日まで十八日間に六千二百九十三尾、此価格千八百二十五円十五銭五厘、第二稲丸は去月下旬九日間に千三百九十八尾、此価格三百九円六十八銭五厘なりと

(『いはらき』明治45年7月5日付)

久慈浜鰹漁獲高最高四千八百円

久慈郡久慈町本年の鰹漁獲高は山県熊之介の一号船四千八百九十九円四十銭、三代庄兵衛氏四千六百八十八円六十銭を最高とし、山県熊之介氏の二号船之れに垂ぎ、其他は二千円内外に過ぎざるが漁獲高の多きは石油発動機漁船にして、各浜を通じ不漁なる割合には好況なりしと

(『いはらき』大正元年11月17日付)

史料14 大正元年11月～2年10月 サンマ漁報道

久慈の秋刀魚大漁 俄かに景気引立つ

久慈郡久慈町は鮭漁の期節に不漁なりしを以て一般の景気沈衰せしか、昨今秋刀魚漁期に入り一日平均二万尾内外の漁獲あるより漁民はほくほく物にて、殊に各商店は俄かに多忙を告げ各料理店飲食店の如きも毎夜登楼客多く非常に繁昌し、久慈館鳴盛閣などは東京及び地方より入込む魚買出し商人の投宿にて座敷に空間なき程の盛況なりと

(『常総新聞』大正元年11月15日付)

久慈浜秋刀魚の値上

久慈郡久慈町にては秋刀魚の大漁に買い手なく、一時は一尾二三厘と迄下落せしが、十四日に至り八厘、十五日に至り一銭二厘まで値上げせりと

(『常総新聞』大正元年11月17日付)

空前の秋刀魚漁 一尾三厘に暴落

本県沿海に亘り潮流順調なりし為め秋刀魚の群来夥しく毎船二三万尾つゝを漁獲し、十一月月上旬は更に多く毎船四五万尾乃至七八万尾つゝを満載し帰帆したるを以て各浜共海岸秋刀魚の山を為し、塩蔵及び生売りとなすの外ヅ粕にまで製造させるが如き有様にて、中旬下旬共尚魚群厚く、廿二三日頃四五日間の時化を除くの外連日相当の漁獲を改め、中には一航海に九万尾を獲し、而して一船の漁獲高は普通二三十万尾にして、多きは約四十五万尾に達せるものあり、斯く秋刀魚の漁獲豊かなる未曾有の事に属し、魚場は遠く福島県江名、四ツ倉方面に出漁したるものあれども多くは磯浜以北久慈、川尻より平潟に至るの沖合七八里より十一二里の所なりとす、価格は去月下旬一尾が三銭ないしもの次第に減じ、本月初旬には一銭五厘より七厘位まで暴落し、遂に四五厘を普通とし一時三厘内外と云ふ空前の相場を現したりと (『常総新聞』大正元年12月13日付)

久慈浜の好景気

久慈郡久慈町に於ける本年の鰹漁は近年稀れに見る不漁にして、僅々三万円内外の漁獲に過ぎざりし為の漁民一同悲観しつゝありしが、秋期秋刀魚の漁期に入るや日々二十万尾乃至三十万尾の大漁あり、目下の仕切相場一尾一銭内外なるより忽ちにして景気付き町家及び料理店等は非常に繁忙を告げ活気市場に充ち亘れりと云ふ

(『常総新聞』大正2年10月25日付)

史料15 大正2年2月 久慈町大正元年度最高漁獲者表彰報道

久慈優勝旗授与式

久慈郡久慈町漁業組合にて昨日午前十一時事務所に昨年最高漁獲優勝旗授与式を挙行し、組合長山県熊之介氏の挙式の辞に次で知事代理羽田郡長より優勝旗を授与し、告辞(代読)、祝辞、答辞等ありたり、受賞者左の如し

春職 三代子之吉 流網漁船々長三代子之吉(鮪鰹漁獲高千七百二十九円八十銭)

夏職 山県熊之介 鰹漁船々長山県口太郎(漁獲高四千八百九十九円四十銭)

秋職 川崎源吾 流網漁船々長五来五郎(鮪鰹秋刀魚漁獲高二千四百九十三円)

(『いはらき』大正2年2月26日付)

史料16 大正2年9月 石油発動機船によるカツオ漁報道

久慈浜の鰹大漁 一艘に三千五百尾

久慈郡久慈町の鰹漁船は石油発動機付共十七隻あり、不漁続きにて漁民の嘆声一方ならざりしが、十五日午後四時頃漁業組合長沢田熊太郎、渡辺巳之吉両氏其他所有漁船金華山沖に向つて出船し、福島県原釜沖にて大漁あり、十六日午前五時勇ましく季帰浜したるが、沢畑氏の漁獲高三千五百尾(価格千四百円)、渡辺氏二千尾(価格八百円)、其他千三百尾より七八百尾位の漁獲五六隻あり、沢畑氏は組合の規定により一日の漁獲高千円以上に達したる為め木杯を贈られたり、同町にて六月以来今日迄の漁獲高多きは二千六七百円、少きは皆無のもの三隻ありと

(『いはらき』大正2年9月18日付)

史料17 大正8年5月 久慈町大正7年度最高漁獲者表彰報道

久慈優勝旗授与式

久慈町漁業組合にては既記の如く昨日午後一時より同小学校に昨年最高漁獲優勝旗授与式を挙行し、知事代理水産技手渡部亀一氏より左記諸氏に優勝旗を授与し、答辞、来賓祝辞、受賞者総代の答辞ありしと

春職 山県熊之介 鮪流網漁船々長三代辰之介

夏職 田所熊次郎 鰹釣漁船々長西野寅吉

秋職 川崎亥之吉 秋刀魚流網漁船々長同人

(『いはらき』大正8年5月9日付)

史料18 大正13年11月 茨城県内サンマ漁報道

秋刀魚が多くて網が引揚げられぬ 各浜とも山の如く積んで大騒ぎである

多賀郡大津には秋刀魚の大漁にて沖合にて多数の漁獲にて網を引揚げの能はざる状況に陥りて網を海中に其儘置去りするものも多く、渚は秋刀魚の山を為し一籠何程の相場にて地方行商に一尾五厘乃至一銭位であるが、県水産試験場の調査報告によると、各浜に於ける漁獲は左の如くである

漁村名 月日

磯崎 四日

六二九、八六八 一一、八〇二

同	五日	五四二、五八〇	五、四二五
波崎	六日	一八〇、〇〇〇	一、八〇〇
湊	七日	五四二、六六〇	六、七八七
久慈	七日	八〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇
波崎	七日	一一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇
平潟	八日	二六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
湊	八日	一、一〇三、三六〇	一九、三四〇
大津	八日	一、〇〇〇、〇一〇	一九、〇〇〇
計		七、四七八、四六二	九四、六二四

(『常総新聞』大正13年11月11日付)

史料19 大正15年11月 久慈浜イワシ・サンマ漁報道

久慈浜大景気 鰯とさんま大漁

久慈浜では引続きさんま大漁で、目下水場一銭二三厘前後にて一日平均大廻駅よりの出荷は五輦を下らざる盛況で、鰯群の相次で同地先沖僅かに二海里の漁区に襲来し、之れまた二三輦づきの貨車が消費地に向け発せられつゝあり、甚だしきは鰯の大々漁の為め到底始末においぬ位で、魚油肥料等にすてふ工合で、ここ久慈浜は大戦場の如き有様で素晴らしくなつて来た

(『常総新聞』大正15年11月11日付)

史料20 昭和4年11月 久慈浜サンマ漁報道

さんまで景気よい 久慈町の昨今 底引漁に移る

久慈町に於ける本秋の秋刀魚は最初漁獲僅少にして前途を悲観しつつあつたが漸次好転し来り、先月中旬頃より漁区が同地沖三四海里の地点に移動した為め俄に大豊漁続きとなり、一尾五銭前後を唱えつつあつたものが一銭内外にまで暴落し、一日数十万尾の水揚げで予期以上の大漁となり、西風立ちそめた昨今では早くも該秋刀魚漁獲の薄らぎを見たも、総計四五十万貫に対し此価格十五六万円に上り、一艘平均の純利益は千五百円前後と称され、秋刀魚の大半は一勢に底引漁獲に移つた

(『常総新聞』昭和4年11月29日付)

史料21 昭和8年7・8月 久慈浜イワシ・カツオ漁報道

久慈町の鰯漁 三十年来の大漁 一万四千貫、時下二万二千元 町内頓に活気を呈す

久慈郡アグリ(鰯漁船)ではさる十九日から引続き二十五日までの一週間に亘り久慈浜沖合で背黒鰯の大漁があり、一斗桝一杯最高二円から七十銭にまでに暴落、漁獲高一万四千貫、時価二万二千元に上り、東京、北海道、関西各方面の間屋筋へ製品貨車十四輦(一車輦千五百円)を積み出し、尚ひつきりなしに満載して入港するアグリは喜びに溢れた大混雑を呈し、海浜は製造に汗だくの漁民で埋められてをる、因に右の如き大漁は卅年来未曾有のことで、近年久慈町唯一の特異的技術であつた底引網漁の衰微は、経済界の不況と相待つて漁民を遂にアグリにまで転化させて来たが、この大漁は寧ろアグリに拍車をかけた観あり、鰯等の大漁の如き一部資産家に利益は集中されず漁民一般に黄金の洪水が流入した関係から、町内の各商店は活気をお

び、花柳界方面は不夜城の観を呈してゐる

(『いはらき』昭和8年7月27日付)

久慈町漁船 鰯大漁 続く豊漁に全町が活況

久慈町では十六日長宝丸が五千尾、十七日祥天丸が四千尾、小型漁船六艘が六千尾、計一万五千尾の鰯を満載して帰港したため俄然活況を呈し、同町漁業組合事務所前は裸の漁夫に埋まり所狭き程で水揚げ相場六掛半から七掛までしてゐたのが五乃至六掛まで低落したが、両日に亘つて五千余円の黄金を生んだ十カイリの沖合での漁獲で、この度の如き小型漁船の豊漁は十五年来の稀有のことで、尚ほ漁獲は続けられてをる、因に同町では本年度夏職第三回目のことで、曩に背黒鰯の三十年来の大漁をみた矢先なので、かつて二十三艘の鰯漁船を有し他漁港を圧してゐた同町が現時不況と減漁の影響で鰯漁船はたゞの前記二艘にまで減少したが、再び昔日の優勢を挽回するのではないかと期待されてゐる

(『いはらき』昭和8年8月19日付)

史料22 昭和9年12月 茨城県下イワシ漁報道

県下鰯漁業のめざましい躍進 総漁獲高二百五十万円

県下鰯漁業は他漁業を圧して近年來めざましい躍進振りを示し、将来益有望視されるに至つたので、県水試ではこれが基本的調査を遂げ、今後の飛躍に備えるべく計画中であるが、昭和五年以来本年に至る五ヶ年間の平均総漁獲高は一ヶ年百三十四万八千円で全国大五位に進み、本年の如き潮流異変に禍され、春から夏にかけて不漁だつたに拘らず二百五十万円を越へんとして居る、現在揚繰網は波崎、磯浜、湊、磯崎、久慈、大津、平潟の七港で八十一統あり、尚各港共それぞれ新しく計画中で来年からは百統に達すべく、鰯加工方面も激増し来り年産三百万円を越へ、販路は東北近県各地の外朝鮮、満州方面にも新しく開拓され、限らない県鰯漁業の躍進を示唆して居る

(『いはらき』昭和9年12月23日付)

史料23 昭和15年2月 久慈浜イワシ豊漁報道

久慈町の鰯漁賑ふ 漁獲高最高二十万内 漁夫や機関手へも多額の手当金

久慈町の鰯漁は近年稀に見る豊漁で、十二艘の揚繰船が約二百万円を漁獲したが、一般の最高は二十万円から十四五万円で、乗組員の報酬も従つて一漁夫が一千元、機関手が二千元、船長三千元を前年九月から十二月の四ヶ月間で懐中したものである

(『いはらき』昭和15年2月13日付)

史料24 昭和16年1月 久慈浜鰯揚繰船の漁獲報道

鰯の豊漁に活気 久慈浜の物凄い張切り

久慈浜は旧臘中から鰯の豊漁に活気を見せ、渡邊吉郎平、宇佐美松兵衛、三代庄兵衛、同利七氏等は廿万円から廿二、三万円の豊漁で、同町十三艘の鰯揚繰船は八十万円余の漁獲で本年こそ県下一の大口を上げるぞと物凄い張切り方である

(『いはらき』昭和16年1月14日付)

史料25 昭和17年3月 久慈町漁業協同組合昭和16年度
漁獲高報道

久慈漁組本年度漁獲高十三万円 小発動機船漁獲
は減収す

久慈町漁業協同組合ではこの程十六年度鰯揚繰十二統並に
小発動機船の漁獲高を調査決定の上次の如く発表した、昨
十五年度に比較すると揚繰において十三万五千五百廿八円
の増加、小発動機において三万一千四百五十八円の減額、
昨年度活躍したモーター船の一万九千六百八十二円の本年
度皆無を差引きしても八万四千余円の増収となっており、
依然として浜大漁である、なほ右表彰式は四月上旬挙行の
筈、次ぎは揚繰各船の漁獲高で、数字は金額、単位円

大三丸一四九、九七四 明神丸一〇九、〇四四 大
庄丸一〇五、四六六 家満丸六五、七四四 大興丸
五三、二九八 大□丸三五、七二七 琴平丸三三、
六四二 定司丸三三、四四八 大昌丸二七、四一五
昭政丸一九、五〇三 孫八丸一七、一三三 祥天丸
九、二九六（合計六五九、六九七円 小発動機以下略）

（『いはらき』昭和17年3月5日付）

史料26 昭和17年8・9月 久慈浜カツオ豊漁報道

久慈浜の鰹大漁 毎日一万尾を水揚げ

久慈浜は鰹大漁に沸き返つてゐる、近年珍らしい潮流の異
変で廿町から〇カイリ位の近海に鰹の大群が襲来したの
で、廿日位前から十余隻の鰹船が出漁、毎日一万尾余づゝ
の豊漁で女も子供も海岸に出動して陸揚げし、直に氷詰と
して東京方面へ、残りの一部は水戸、日立、太田地方の市
場へと積出されて行き、同町はまるで戦場のやうな忙しさ
で、鰹大漁浜の景気は素晴らしい

（『いはらき』昭和17年8月22日付）

久慈浜沖の鰹大漁 小型機船で連日二三千尾水揚げ
久慈浜沖合で鰹が獲れたといふ話は古老も知らぬ—といふ
程珍らしい同港今夏の鰹漁は八月上旬から連日の如く小発
動機船が僅か〇カイリの沖合で二千三千尾といふ大漁を
つゞけ、旧盆前に十万円の漁獲高といふ俄景気を示した
が、盆休養も漸く終わつて出動した二日は七千尾三千五百
貫といふこれまた大漁で、潮流の関係上少く共向後十日間
は鰹が滞留するものと見た同浜の鰹景気は素晴らしいもの
がある

（『いはらき』昭和17年9月4日付）

史料27 昭和17年11月 久慈浜鰯揚繰漁報道

背黒鰯の大群 久慈浜沖に押し寄す

鰯の久慈浜に鰯の弟分めいた背黒鰯が大漁——同港の鰯網
操船は目下他県に出漁中で浜は比較的閑散であつたが、数
日前から同港沖中に背黒鰯の大群が押寄せたので、留守で
手持無沙汰をかこつてゐた中揚繰船が一斉に出漁、一統二
三千貫といふ素晴らしい大漁に凱歌をあげてゐる、この背
黒鰯は柄こそ小さいが味覚は上乘、煮出汁として頗る美味
のため鰹節の代用品として厨房の寵児となる煮干百匁公定
六十六銭で飛ぶやうに売れてゐる

（『いはらき』昭和17年11月14日付）

史料28 昭和18年12月 久慈浜鰯揚繰網漁報道

鰯連日の大漁 久慈浜港十日間に十五万貫

鰯の久慈浜基地に連日大漁の捷報〇る、陸前地方から逐次
南下しつゝあつた鰯の大群は目下〇〇県〇〇沖合において
盛んに廻遊しつゝ徐々に南下中であるが、この鰯群必滅を
期して出漁した久慈浜の鰯揚繰網船明神丸、家満丸、大庄
丸、第三丸等八統の鰯船は去月廿八日ごろからいよいよ本
格的な漁撈を開始、一統一日一万貫内外を漁獲した小名
浜、江名浜港に陸揚げする一方、基地久慈浜へも運搬船が
連日帰港して、過去十日間に約十五万貫の水揚げを行つてを
り、宇佐美松兵衛氏の家満丸の如き十日間に約三万円の鰯
を基地に運び、同浜は破れ返る鰯人気を呼んでゐる、殊に
この秋職からは従来の水揚げ一貫匁五十三銭が一躍八十銭に
飛上つたため網元の採算もとれ、既に平均七、八万円の稼
ぎを見、網元によつては十四、五万円の漁獲を得るなど久
方振りで鰯揚繰の本領を発揮してゐる、一方網〇の大漁も
正比例して地元久慈町の海産物加工業者も丸干や粕漬その
他の加工に〇手古舞の姿であり、目下隣組の加勢を受け
つゝ加工送荷に大車輪だ

（『いはらき』昭和18年12月12日付）

史料29 昭和19年2月 燃料不足下の久慈浜鰯揚繰網漁

数年ぶりの鰯大漁 久慈港の水揚げ五十七万円

鰯の漁港久慈浜に数年ぶりで大漁の凱歌があがつた、同浜
八統の鰯揚繰船秋職は客歳末を以て終了したが、結果は他
県漁港に対する水揚げ数量は別とし、久慈町の漁業協同組合
だけでも実に七十二万貫、価格五十七万六千余円といふ巨
額に達した、八統中の横綱格は宇佐美松兵衛氏の家満丸で
実に廿一万円を突破する空前の漁獲高を示してをり、大衆
食膳の王者たる鰯の増産に寄与した国策敢闘は見透し得ぬ
ものがある

新春に入ると共に漁油その他の関係上八統中の五統は
一旦休船、中揚繰に切替へて再活動すべく準備中だ
が、依然として家満丸、大興丸、定司丸の三統はその
まゝ大揚繰を使用しつゝ豪快な漁撈報国をつゞけてを
り、こゝ一、二ヶ月間は県民の食膳に新鮮な大衆魚を
提供してくれる筈

（『いはらき』昭和19年2月3日付）

史料30 昭和19年12月 減船下の鰯揚繰網漁報道

鰯漁愈々決戦期へ 久慈浜大漁の前景気盛ん

鰯漁群の南下により久慈浜の大網繰秋職もいよいよ漁撈の
最高調に突入した、即ち同港の大網繰は今秋整備の結果家
満丸（単独）、明神丸—大庄丸、大三丸—定司丸（合同）
に転換したが、鰯単価の高くして廉価な大衆魚の増産にお
いて漁業報国の至誠を捧げやうとするこれ等網繰船は何れ
も少い資材窮屈な労力にも拘らず、創意と〇〇に〇〇で隘路
を克服しつゝ、潮の如く南下する鰯群を追つて現在〇〇沖
から〇〇沖にかけて連日壮絶極まりない漁撈敢闘を続けて
居り、結果は現在のところ宇佐美松兵衛氏〇〇経営の家満
丸廿二万円を〇頭にそれぞれ廿万円近い漁獲高をあげ、早
くも大漁の前景気盛んだ、一方同浜における本年度帝都向

け生鰯の責任出荷□□は二万二千貫であるが、廿三日現在既に一万八千五百貫を出荷済の事として責任の完遂は確実である、なほ漁群の南下に従ひ漁場も母港近くなつた事として地元久慈町の漁業組合へは既に十回の同港水場があり、今後県下各地への鰯配給量が増加するといふ、嬉しい限りだ（『いはらき』昭和19年12月26日付）

史料31 昭和20年5月 久慈町三代商店経営の大謀網漁報道

敵前漁業へ 久慈浜の大謀網 活況を呈す
久慈浜の大謀網もいよいよ近く本格的漁撈に入る——三代□勝氏が経営を開始して今年で三年目の三勝商店の大謀網は過ぐる二ヶ年余り香しい成績ではなかつたが、今年こそと気負ひ立つた網主は文字通り敵前漁業の現在の勞力事情では他県からの受入れが困難となつた覚悟をかためてゐるため地元駐屯の〇〇部隊並に湊水産青年学校生徒等の奉仕があつて事業は本格的軌道に乗り、さる八日の大詔奉戴日から初漁を開始した結果、三回の網揚げで鯖二万貫を漁獲した、而もその後潮流は益々好転し、鯖群の回遊状態に曾つてなきの大漁を予想されてをり「一夏百万両」の大漁獲を目ざす大謀網の本格的活躍は目前に迫つてきた（『いはらき』昭和20年5月20日付）

（3）振 興

史料補遺 大正元年8月 茨城県下漁船改良（発動機据付）進捗状況報道

県下の改良漁船 續々改造せらる

本県沿海漁業者は在来の鰹漁船を改造して石油発動機を据付くるに至りしが、本年の如く鰹の漁獲少なき時に際し若し在来船にのみ依頼せば近県の発動機漁船に漁利を壟断せられ、只々袖手傍観するの他なきに陥りしやも計られざりしが、幸ひにも平潟二隻、大津一隻、豊浦四隻、会瀬一隻、久慈二隻、磯崎二隻、平磯四隻、湊四隻、磯浜二隻都合二十二隻の改良漁船は日夜近海に活動しつゝあるを以て多少の漁獲を見居れり、而して六月以降今日迄漁獲ありしは多賀郡豊浦町佐藤寅之介氏の館山丸二千八百円、鈴木貫一郎氏の家満嘉丸二千五百円、平潟町鈴木竹三郎氏の海王丸二千円、根本與一氏の日本丸千二百円、久慈町山県熊之介氏の第一豊丸二千三百円、第二豊丸千八百円等最も多き部分なるが、改良漁船の内にも僅々五六円に過ぎざるものあり、以て如何に不漁続きなるかを卜するに足るべし、県下漁業者の内目下発動機据付中なるは久慈三隻、豊浦二隻、其他三四隻にして、尚ほ改造の準備中にあるもの数名あるが、現在の状況より見れば新潟式の発動機多く好成绩を示し居れる由にて、尚ほ豊浦町鈴木貫一郎氏は十馬力の石油発動機漁船家満嘉丸か速力の関係上漁場に活動するを得ざるを認め今回復等十五馬力に据替へ、二十一日漁業組合役員乗組み試運転を行ひたる結果、成績優良なりしを以て直ちに出漁準備を整ひたりと

（『いはらき』大正元年8月24日）

史料32 大正2年2月 久慈町に機関手養成所開設報道 機関手養成開所式

久慈郡久慈町漁業組合長山県熊之介氏方にて既報の如く昨日午前十時機関手養成所開所式を挙行し、知事代理斎藤水産技手臨席せり

（『いはらき』大正2年2月21日付）

史料33 大正2年6・7月 漁船動力化資金貸付決定報道 漁業低利資金貸付

久慈郡久慈町渡辺重正氏外二名は補助機関据付改良漁船経費に充つる為め、勸業基本金貸付規定に依り本県に申請中の処、昨日知事より三百五十円貸付の認可を受け、四ヶ年平等にて大正三年より毎年三月卅一日限り利子を添へ償還する筈なり（『いはらき』大正2年6月21日付）

漁業低利資金貸付

久慈郡久慈町飛田朝吉氏外二名の出願に係る勸業基本金低利貸付七百円は昨日知事の許可を受けたり、償還期限は五ヶ年に等分し大正三年より毎年三月末日限り利子を添へ償還するものにて、補助機関据付に支出するものなりと（『いはらき』大正2年7月11日付）

史料34 昭和5年3月 久慈浜漁業功労者山県熊之介・三代芳松・小沢久米八事蹟紹介報道 久慈浜漁業の功労者 三氏の碑を建て永遠に記念 県水産会長、内務部長臨席して昨日盛大に 除幕式挙行

久慈町は東海岸中屈指の水産業地であることは周知の事実であるが、其の主要なる漁獲物は鰹、秋刀魚、鮪、鰯、鯛、キス等年額約百万円に達せんとする趨勢を示し来り、更に鰹節、煮乾鰯、竹輪、蒲鉾、田作、搾り粕の如き加工副産物の製造又著しく進歩し、年産五十万円を算するに至つた、右は一面時代の進運に伴ふ斯業者の施設に□然するところなき結果の賜ではあるが、併し一面之が誘導開発に資せられた先覚者の功績は決して没す可からざるものであらう、殊に遠洋漁業の旺盛なる今日、旧来の漁携法を蟬脱して能率増進上一方法を案出し、今や近浜各漁業地のみならず全国的に斯業者は其の恵沢に浴しつゝある事蹟に徴しても偉大な勲功は決して没すべからざるものである、同町漁業組合有志相諮り、故山県熊之介、三代芳松、小沢久米八□三氏の隠徳に酬ゆべく釀金し、同町薬師堂境内に功労碑を樹てこれが不朽を謀ることとなり、昨日日本県水産会長大内内務部長臨席の下に盛大なる除幕式を挙行した、依つて茲に其の片鱗を記すことゝした

山県熊之介氏氏は「秋季大目網漁撈法」の先駆者であり且つ「石油発動機据付漁船」の率先者であり、近県漁業の振興発展に寄与貢献するところ頗る多い、尚ほ「鯛手釣業」にも熱心指導の任に膺り為めに斯業に一段の光彩を放つに至つた、大正十二年十二月時の内務部長堀田鼎氏から功績を表彰され、同十五年には久慈水産会長渡辺吉郎平氏から銀側一個を贈呈され、一昨年惜くも故人となつたが、

現秀次氏又町議及び組合理事として斯業に尽粹してゐる

三代芳松氏氏は「沖曳網漁船巻機械」「鯛漁業機械揚繰網」の発明者である、其の発明の動機たるや大正八年中秋の頃偶々太田登記所からの帰途、当時木崎山下に在った竹内権兵衛氏経営の竹内製紙工場を参観し巧妙なる製紙機械の偉力に感じ、翻つて水産の進歩遅々たるに発奮し、或は遠く中国九州に或は県命を奉じて三浦三崎に視察に赴き努力研究の結果完成し、日本海岸東奥房総各地に於ては専ら三代式漁業法に恵沢されてゐるのは特筆に値する

小沢久米八氏氏は明治三十八年鰯刺網漁撈法を改良してこれを巧みに鰯漁□に改良応用を加へんとして自奮し、自らこれが使用を試み幾度か失敗を重ね経営苦心□□実現を観るに至つた、資性健実の人、一度氏の発明あるや各浜競ふてその漁法を喧伝したために、今日では東奥は勿論北海道各地に於て使用さるゝに至り、氏の功業も又偉大といふべきであらう（『常総新聞』昭和5年3月15日付）

史料35 昭和8年9～12月 久慈漁業組合の深海棧船底曳網漁試験実施報道

四百尋の海底深く 機船底曳網の試験 漁民再生のため新漁場を開拓

久慈漁業組合の壮挙久慈町漁業組合では県水産課との交渉も済んだので、いよいよ十一月中旬頃同町沖合四カイリ辺で機船底曳網漁を試験することとなつた

機船底曳網漁は通称ギスと呼び、同町独特の技術で福岡市、秋田県土崎、宮城県気仙等の各地に同町漁夫が教師となって招聘された程で、大正七、八、九、十の四ヶ年に亘る漁獲高年額百万円突破は実にギスの隆盛に影響されたので、ギスの衰微は不景気と相俟つて漁獲高の減少を来し、同町漁業の極端な萎縮を齎した、かゝるギス漁が三四年前から全く姿を消し、安易なアグリ漁（鰯漁）が盛んとなつたが、アグリ漁の隆盛はギス漁程の好影響がなく、到底不況打開策には縁遠いもので、再びギス漁の勃興を計るに至つたものではあるが

岩手、北海道、四国等を中心として全国の漁業家によつてギス漁全廃論を主唱されてをる今日、その流に抗して同町特異の技術なるギス漁を復活、唯一のたのみとして不況打開に備へるは冒険なれども同町漁業家の意気は悲壮なるものである、従来久慈町で行つてゐたギス漁の水深は三百二十尋で他県で全く追□し得なかったが、この水深には漁獲減少で期待し得ず四百尋以上の全国記録の海底において試験されるわけで、ワイヤロープを使用し千三百円を投資し（その中県費補助八百五十円）五十馬力以上の漁船を使用することとなつたが、この新漁場開拓のための試験漁獲は全国当業者間に一大センセーションを惹き起こしてゐる

我国水産業界に貢献 渡辺組合長談

右につき漁業組合長渡辺吉郎平氏は語る

この計画は久慈町漁業の不振打開のためになされるものであるが、水深四百尋の海底漁は全国で未だなされてゐず、実にその結果は我国水産界に大いに益するものを生むと思ふ、魚類は銀鮫兎鮫の如き真黒く眼の青く光る獣の如きものが多いと思ふが用途は可成多い

（『いはらき』昭和8年9月30日付）

四百尋の深海で機船底曳網漁 久慈町漁業組合の試験注目せらる

既報の如く久慈漁業組合では同町特異の機船底曳網漁（ギス漁）を以て十二月上旬十日間沖合十四五カイリ辺の海底三百尋乃至四百尋を試験的に漁獲することゝなつたが、四百尋の海底漁獲は日本漁業ばかりでなく実に世界的記録ともいふべき未曾有の試験である、さる十九日水産試験所から田所所長、石田技手両氏出張、同漁業組合事務所楼上において組合長渡辺吉郎平氏外数名の幹部と協議をした結果、試験費千二百四十円を要し県費補助八百五十円で残金三百九十円は何処から捻出すべきかに悩んだが、早くからこの事業計画に努力し来つた渡辺吉郎平氏は自費を以て償はんと声明したので、漁愛会長三代利吉氏もこれが寄付に賛成し、篤志家渡辺巳之太郎氏の如きは六百円を投じて副船をだし、試験に対する同町漁民達は真剣であり、現在全国漁業家から機船底曳網漁廃止運動が烈しく行はれてをる際とて、これに抗して断行する該試験は業界の注視的となつてゐる（『いはらき』昭和8年10月23日付）

久慈沖で行つた深海底曳網試験 天候不良で漁獲は不漁 全国漁業界最初の試み

久慈町漁業組合主催県水産課応援の第一回深海機船底曳網試験は船長星野政之丞氏以下乗組員十八名が水産試験所石田技手指揮のもとに宝伝丸に乗込み、さる二十一、二、三の三日間にわたり久慈浜南東二十一カイリ附近磯崎沖合で実施した

第一日 水深三四〇尋（五十五米）、底質は泥、獲物アカジ三貫、メヌケ十三貫、雑魚一〇〇貫

第二日 水深三九〇尋（五九三米）、獲物オキマナコー〇〇〇貫

第三日 水深四二二尋（六三六米）、獲物オキマナコー〇〇〇貫

右の如く三日間を通じて獲物高四十□にすぎなかったが、これは速度十二米の西風のため逆潮で極めて気候不順が原因してをり、四百ヒロ内外の深底にも魚族が棲息していることが発見され、かゝる深海漁業は久慈町ばかりでなく全国でも未だ経験せざる未知数のものであつただけに、我国水産界に一エボツクを画するもので、技術的方面は全く良好のため順調の天候でさへあれば採算がつく故相当期待がかけられてよいものと観られてゐる、なお第二回試験実施は来春早々行はれる筈（『いはらき』昭和8年12月25日付）

史料36 昭和9年6月 カジメ採取とアワビ漁対立報道

カジメの根絶えに採鮑組合の脅威 久慈の組合員数十名出動 昨夜来徹宵の警戒

久慈町漁業組合では同町釜坂地先海中の肥料用カジメの鎌切採取を例年の如く十五日より向ふ十五日間許可したので、附近農民及び小舟を有する者は約百艘の舟に乗り早朝より出船したが、何れも鎌切を行はず竹棒の先端に鉄棒数本を取り付たメキリと称する採器を使用するためカジメは

根元より採取されるので、同町漁民特に採鮑組合員はカジメは養鮑上必要なもので乱獲されては生活に脅威を感じると、十五日夜より組合員数十名は海岸に出動し、遂に同夜徹宵乱獲警戒をなしたので、太田署よりも警官出動し警戒に努めたが引続き警戒中である

(『いはらき』昭和9年6月17日付)

掲布採取問題対立融和す

久慈町蒲坂地先海岸の肥料用海草カジメの鎌切採取を同町漁業組合で許可した所、附近農民が何れも鎌を使用せずネキリを用ひ根元より採取してしまふので養鮑上必要なものを乱獲されては生活に脅威を感じると、同町採鮑組合員側で憤慨し、十五日夜来海岸に出動し乱獲警戒をし不穩の形勢を示した事は既報したが、その後両者交渉の結果カジメ採取側でネキリを使用せず鎌刈りにすると申し出て来たため両者の感情漸く融和し解決の運びとなつた

(『いはらき』昭和9年6月18日付)

史料37 昭和12年1月 機船底曳網漁全廃反対運動報道

底曳網全廃反対運動に 久慈町業者も合流 廿日・代表者八名上京

農林省では魚族の繁殖を図るため機船底曳き網漁業の全廃策を講じてゐるが、七年間も全廃されては従業者の死活問題だと同業者間では猛烈な反対の烽火をあげてゐるが、この反対運動を貫徹すべく宮城、岩手、北海道同業者有志事務所が主催となつて二十日午前九時半から東京赤坂溜池三会堂において底曳網全廃反対会議を開催する事になり、本県久慈町機船底曳網漁業組合に対し出席方の通牒があつた、これに対し同町では組合員十二名が参集協議の結果、代表者組合長渡辺吉郎平、書記高野菊之助外六名が出席することに決定、二十日上京する

(『いはらき』昭和12年1月19日付)

史料38 昭和12年7月 鰯揚繰網漁の制限撤廃要望報道

全国有数の鰯漁場 揚繰網増加の陳情 久慈浜漁業者躍起となる

青森より北海道にかけてはいよいよ本格的な夏時漁に入らうとしてゐるが、本県揚繰網漁業者もこれに刺激されて本年度より拡張の計画をたて、当局に陳情せんとしてゐる、これを久慈浜の揚繰網漁者についてみるに、昨年度(旧九月一日より旧十二月一杯)四ヶ月間の漁獲物(鰯)は前年より二万円余の増加をみせ、実に十一万五千円の巨額に達し、純益金五万円余をあげるに至つてゐる、然し乍ら同地は濫獲を防止するため十五張を限度とされてゐるため同漁の発展を企図することが出来ず、折角に全国に有数なる大漁場を有してゐながら当局の取扱ひに災され、口数の増加が見られない場合は、延いて揚繰網漁の不振を来すことになるので、地元ではこれが対策に腐心してゐる

(『いはらき』昭和12年7月30日付)

史料39 昭和19年8月 戦時下の久慈浜鰯揚繰網漁報道

鰯漁獲に新構想 漁獲高維持に久慈町で対策を練る

『鰯の久慈浜』として多年の口く伝統を誇る久慈浜の鰯揚繰漁も苛烈な戦局を反映して漸く経営間に幾多の支障を来す事になつた、即ち連年十数名の大網元から『秋職』と称して遠く宮城、岩手県下まで出漁し来つた大網繰は八、九統から十統を越え、一年の秋職において百万円乃至二百万円の漁獲高を示してきたが、資材殊に油類、食糧は勿論、乗組漁夫や船腹等にも隘路続出でこのまゝ放擲すれば本秋の出漁は殆んど不可能視されるに到つた

この事態を憂慮した県水産課では、鰯が廉価で栄養源に富み、所謂大衆魚として貴重な魚類であるため、これが増産確保こそ最も喫緊事とされてゐる現況に鑑み廿日地元久慈浜の漁業組合で水産課、県水産業会、県水産物出荷配給口商組合、並に地元漁業組合、網繰船主等関係者四十余名が参会して鰯増産に関する第一回の大評定を開いた結果、生産量を維持確保するためには現在の機構を以てしては困難な事実を認め、何等かの方法においてこれが打開策を講ずる事に衆議一致した、依て新機構案口のための委員会を設ける事となり口が口口地元船主を中心に、その他関係機関、代表を加へて十二名の委員を決定、この委員会は口口に開催して対策を練る事を申合せ廿日は散会した、鰯の町と称されるだけに同浜の死活を握る新機構に口された期待は大きい

(『いはらき』昭和19年8月22日付)

(4) 久慈川と漁港整備

史料40 明治39年8月 久慈川増水による河口開削紛争報道

久慈町民大挙陳情せんとす

去る二十四日の風雨にて久慈川増水したる結果、其上流たる久慈郡東小沢村、那珂郡村松村は田畑浸水し七八千円の損害を蒙りたるより両村民数百名は久慈町字向渚を開鑿して新河口を造らんとし、翌廿五日午前十一時頃同地に押寄せ無断開鑿に着手したるより、右開鑿に付て漁船出入の途を失ひ目下鰹の大漁季節同地の鰹漁船廿一艘に他の廻船を加ふれば一日の入船三十艘以上に及び一艘の漁獲を二百円とするも一日の損害六千円にて三ヶ月間継続するものとせば九万円以上の大損害を蒙るべき久慈町民の激昂一方ならず、無断開鑿の不当を責め光景頗る不穩を極めたりしも、日向太田警察署長が部長巡查を率ゐり開鑿を中止せしめたるに依り一時事なきを得たるが、同日午後五時二名の県吏員来り開鑿を許したる為久慈町民は此処置を以て事の輕重を弁ぜるものとし大挙出県、其筋に陳情する所あらんとて目下協議中なりと云ふ

(『いはらき』明治39年8月28日付)

史料41 明治41年6月 久慈河口改修工事完了報道

久慈河口改修工事完了

久慈郡久慈川口改修工事は頗る難口を極め毎度県会の物議を醸し、三十九年度の如き椎名、佐藤両県会議員は態々上京して内務省土木局に至り口初め設計並に当時の設計を説いて当局の意見を求めたる結果、漸く一万四千余円の工事

費を可決したるものなるが、爾来土木課にては注意に注意して工事を進捗したる為め、昨今漸やく工事の完了を告げ、最初の目的通り従来土砂の為め河口の埋没するを改修し得て今は漁船の出入自由自在なるに至れる由

(『いはらき』明治41年6月30日付)

史料42 明治42年 久慈町・坂上村漁船遭難報道

昨年の遭難漁船 溺死者は僅か卅四人〔抜粋〕

久慈郡 久慈町は鯉船二〇、鮪船八、秋刀魚船二八、ギス船三〇、雑漁船一四〇、漁夫八八〇にして遭難船一艘、死亡漁夫三人あり

多賀郡 坂上村は鯉船六、鮪船一二、秋刀魚船八、雑漁船一五、漁夫二三〇にして遭難船なし

(『いはらき』明治43年5月25日付)

史料43 大正元年8月 久慈浜船溜場建設計画報道

久慈浜に船溜場 本年度より着工か

久慈郡久慈町は久慈浜を控へたる漁業地なれども従来久慈川により船舶の出入を為したる為め洪水又は土砂の流出によりて不便を感じたること多し、同町民は同浜漁業の進歩発展を期するが為め安全なる避難漁港を造る能はすともせめては船溜場を設けんと二三年前より計画中なりしが、愈々本年度に於て五千万の工事を起こすことゝし県に向つて其設計と補助申請を為したるより本県にては昨年の通常県会に於て之れが補助費を計上し、今春来下村土木技手主任となりて設計調査を行ひつゝありしが、愈々川口の南側に約十町歩の船溜場を造るの設計を立て、目下之れが認可申請中なるが、仮令近日中に其指令を受くとも同町に於て予算を議決し着手するは早くも来年度なるべしといふ

(『常総新聞』大正元年8月26日付)

史料44 大正元年9月 久慈川増水による久慈町と港の被害状況報道

各河川増水被害 浸水家屋多し〔抜粋〕

去月三十一日夜より本月一日に亘り大暴風雨あり、各河川増水せし事は前号所報の如くなるが、其後の報に依れば左の如し

久慈川の沿岸 久慈川は二日午前六時に至り河合地先一丈三尺、同七時に一丈五尺となり、浸水家屋十戸反別百三十町歩の被害あり、且つ沿岸村民は川口開鑿の為め久慈町に押寄せしも巡査の説諭にて引取り、午前入時に至り二尺五寸減水せり、〔中略〕久慈町漁民は消防手と青年団の手を借り汽船の保護に力め、浸水家屋床下二戸に過ず

(『常総新聞』大正元年9月4日付)

久慈港の大破損

過般の水害により久慈川口に損害を受けたる事は取り敢へず報道し置きたるが、藤崎技師の設計に成る東防波堤の根元即ち向渚に接続する砂原は幅百六十間に亘り破壊せられ、久慈川より向渚の裏に直接流入することゝなれるより、之れが復旧工事を速にせざるときは防波堤は海中に孤立する姿となるを以て早速復旧工事に着手すべしといふ

(『常総新聞』大正元年9月5日付)

史料45 大正元年9月 久慈河口におけるカツオ漁船転覆事故報道

鯉三千本流失 久慈浜の漁船転覆

久慈郡久慈町字行戸戸沢熊太郎所有石油発動機据付改良鯉漁船は五日払暁出漁、同町沖合にて漁撈に従事し大鯉二千本、鮪鯉一千本を漁獲して帰航の途に就きしが、午後三時頃同所海岸より約一町半の場所に於て激浪の為め船体転覆し、乗組員一同は無事海岸へ泳ぎ着きしも船体及び機関は大破し、其の損害八百余円なりとの事なるが、右漁獲せし鯉三千余本は全部流失したりと

(『いはらき』大正元年9月7日付)

史料46 大正2年9月 久慈川増水による河口砂洲決潰報道

久慈川急施工事 川口向渚の決潰

久慈川河口なる久慈町民と同川上流沿岸村民との間に多年の懸案となり居れる河口対岸砂洲は洪水の節同地量水標五尺に達したる場合には上流民に於て砂洲百二十間の内何れなりとも切断するも久慈町民に於て苦情を言はざるの契約ありしに、端なくも今回の洪水にて同契約地より百間許り上流地点より自ら切断せられ、目下尚ほ濁流滔々として容易に近づくべからざる状況にあり、右決潰地点にして捨置く場合には幾何ならずして久慈河口船付場は波浪の作用にて砂洲と変化すべく、若し河口維持の方面より見る時は久慈川河口は従来の儘なる方船舶の出入に至便にして其河口の変更は同町の死活問題なれば急施工事をして川止めをなさざるべからざるは勿論上流沿岸に於ても今回の如き河口の変更は排水に至大の関係あるを以て一兩日中万難を排しても同工事に着手すべしといふ

(『いはらき』大正2年9月4日付)

史料47 大正2～3年 久慈港県費支弁港編入請願運動報道

県港湾編入請願 久慈町民の運動

久慈浜が天然の好湾形を成し東海浜枢要の位置を占むるに拘らず、堤防不完全の為め漁民常に困難を極め、又大洪水の際には久慈川の水氾濫して上流那珂郡沿岸田畑原野の被害甚だしく、之が為に被害各町村の紛擾をも生ずるを以て、久慈町民より該港湾を県港湾に編入し且つ導流堤修築の件を請願せんとの準備中なりしは既報の如くにて、愈々今回町民連署を以て県会に請願書を提出したるが、請願の理由は之を県港湾となし東西両導流堤を完全にせば、如上の事なからしめ得ると同時に沿岸漁民の避難所となり、千葉、福島其の他各県の漁船を招致する等利便頗る多しといふに在りと

(『いはらき』大正2年11月16日付)

久慈築港の将来 県当局者の意向

久慈港湾を県費所属に変更されたき旨同町及び沿海各郡有志者より請願したる事は既報の如くなるが、右に付県当局者の意向を聞くに、元来港湾と河川口の境界は何を以て標

準とし那邊より区分するかに就ては疑問の存する所にして、久慈港湾の如きも亦然りとす、同川河口構築を以て県費所属港湾に変更の議も要するに河口改造の異名同質のものに外ならず、而して河口と港湾の境界にして不明なるに於ては何れに変更するも差支なかるべく、要は将来其の利害得失のある処に帰すべきを以て県当局に於ても慎重なる審議を要すべしとの事なるが、元来久慈川河口の如きは対岸に脆弱なる砂丘を控ふるより特別の排水法を設くるに若かざるを以て前年左右兩岸に導流堤を構築し、船舶の出入を自由ならしめ、同時に左岸導流堤に漁船を横着となし漁獲物の積卸しに至便ならしめたるも、之れのみにては河口の完全を期し難く、従つて排水に完全を欠くより更に海洋に面し防波堤を築造し導流堤に連続せしむる時は、排水良好なるのみならず水面上万余坪の船溜りを得て一挙兩得の策なりと雖も、斯くては経費容易ならざるより現在の儘を以て不満足ながらも満足し居る次第なるが、これにては河川排水の完全を期すべからざるより速かに同港湾換言すれば即ち同河口を県費所属に編入し、現在の導流堤を更に四十七間延長せば河水の流勢を増進し為めに比重大なる海水圧迫に依りて流導を促進せしめ、河口及び海崖の自然浚渫を為し得べく、やがて高台よりの眺望風致等に関しては県下随一の良好たるべきは磯浜築港の比にあらざるを以て本県将来の為め県当局に於ても同河口の県費所属たるを志望し居れりといふ（『いはらき』大正2年11月26日付）

久慈港編入陳情

久慈町長五来要之介、同漁業組合長沢畑熊太郎、那珂郡村松村長沢畑美畝、久慈郡坂本村長橋本房太郎、世矢村長矢吹小十郎、東小沢村長大内清、西小沢村収入役高野牧太、幸久村長大内幾之介、太田町助役斎藤泰治諸氏は既報の如く二十二日午前出県、岡田知事、東園内務部長、山口土木課長に面接し、昨年通常県会に建議して県所属港湾編入を通過したる久慈港湾の工事費を大正四年予算に計上し起工方を縷陳し、即日帰郡せり

（『いはらき』大正3年7月23日付）

史料48 大正5年12月 久慈河口でのサンマ船座礁事故報道

秋刀魚船の座礁 久慈河口の遭難

久慈町字南町漁夫渡辺捨吉外廿一名乗組める石油発動機船は秋刀魚約七万尾を積載し六日午前二時頃帰町に際し久慈河口内浅瀬に座礁し秋刀魚約半分位を流失したるも乗組員には何等異常なく同町役場、漁業組合、小学校生徒、特殊者及漁夫等四百余名船体引揚げに尽力したるを砂中深く食ひ込み□□□として容易に陸上するを得ず、同日午後八時干潮時を計りて開鑿し同十一時漸く船体を引揚げたる、船体の損害約五十円位の見込みなりと

（『いはらき』大正5年12月8日付）

史料49 昭和14年8月 久慈港釜坂沖合新設促進運動報道

久慈浜築港促進 代表が出県実理調査を求む 万難排し実現に邁進

久慈浜築港問題は夕刊所報の如くいよいよ白熱化し、地元久慈浜町では廿三日町会を開いて全町一致その実現を期し邁進することとなり、廿六日は荒川町長、宇佐美助役、沢畑収入役初め宇佐美松兵衛、渡辺藤重、渡辺惣七、川崎実之助、山形季次、五来富蔵、田所寅蔵、三代子之松、西野半五郎、三代利七の町代表が太田、佐竹、坂本の附近町村長等と出県、午前午後二回吉永知事、久保田総務部長、高橋経済、田沼土木の両課長を訪問、促進運動につき諒解を求め予定地の実地調査を求むるところあつた、予定地久慈町字釜坂地先で同所は天恵的に自然港湾をなし、波浪常に平穏で古来近海の避難所としての役割を果し来つたもので、天然の現形を利用し川口北防波堤より渡浪磯に至る面積約二十万坪を理想的港湾となすべく計画されたものである、久慈浜築港は久しい間の懸案で大正十三年には全町挙つてその実現を期したが成らなかった、その後今次事變の勃発と共に日立鉱山、日立製作所の発展目覚ましく軍事工業は殷賑膨張の一途を辿り多年懸案の日立、助川の合併は実現されて日立市の新設をみ、多賀町の誕生となつて工場地は南進し、多賀工場は久慈町に隣接して新設されたが、貨物輻輳の結果陸上運輸の不便を招来し、これが唯一の対策として茲に港湾築造の運動となつたものである、工費は大体一千万円の見込にて久慈町及び附近関係町村では充分地元負担の用意もあり、同地方発展と工業茨城の飛躍のため万難を排し一路初志貫徹に邁進を期してゐる、尚久慈町では期成同盟発足の運びとなり、河北三郡町村長会では一致賛意を表し協力を申合せて居るので、この運動は益々軌道に乗るものとみられている

（『いはらき』昭和14年8月27日付）

史料50 明治40年～大正13年 久慈町遭難漁船記録

[17頁に別掲]

（5）流通および加工

史料51 昭和6年12月 久慈浜小舟出荷組合創立報道

久慈の小漁業者が小舟出荷組合創立 東京の間屋筋と直接取引 五十余名の協議熟す

久慈郡小舟伝馬船漁業者渡辺辰之介、小田倉議太郎、山崎薄吉、井上庄之介、五来国吉、井上勇太郎の諸氏は去月中より協議中であつたが、在来同町小漁業家の漁獲は一部大漁業者と取引され、しかもこれらは問屋建仕切表により莫大の収取されてゐながら借財関係から損失を見込みながら関係を続けてゐたに鑑み同町宇佐美義氏が同情しこれら小漁業者借財金額を支払の上、小漁業者五十余名は一丸となり小舟出荷組合を創立することになり、さる一月宇佐美方で諸般の協議の末細則一切を可決し、いよいよ年末を期し東京の間屋市場と直接取引を行ふことになつた

（『いはらき』昭和6年12月4日付）

史料52 昭和9年12月 久慈浜イワシの販路先報道
稀有の鰯豊漁に 久慈漁業界活況 副産物は関西、満洲に移出
久慈町漁業者はさる十二日より近年稀有の鰯の大漁に恵まれ、一船主一日の漁獲高でも千円乃至二千円に達し、鰯粕その他副産物の生産高激増、販路も関西を初め満洲方面に拓け、どしどし出荷される状況で、歳末を控へ非常に活況を呈してゐる
(『いはらき』昭和9年12月18日付)

史料53 昭和10年2月 久慈鰯粕競売結果報道
久慈鰯粕競売
久慈浜海産商組合にては去る二十八日久慈浜に於て組合生産にかゝる鰯粕六千俵及び鰯油六千余□
を競争入札を以て売却した、開票の結果
一、鰯粕 値一俵四円五十五銭より下値四円五十三銭迄
一、鰯油値 一缶二円五十一銭より下値二円四十七銭にて落札した
(『常総新聞』昭和10年2月1日付)

史料54 昭和11年4月 鮮魚取引紛争をめぐる水戸地裁判決報道
魚代を廻る繫争 久慈町で
久慈町海産商□□□氏は久慈水産会社が大正十二年二月より昭和八年二月十四日まで同人が船主から落札したる鮮魚代(水名)の立替金三千二百一十一円九十五銭を支払はざるまゝその後昭和八年中渡辺合名会社を組織し、再三の請求にも応ぜざるために、水戸地方裁判所に提訴され係争中の処この程水産会社の勝利に帰し、合名会社を取消し直に立替金三千二百一十一円九十五銭を支払ふべしとの判決言い

渡しがあったが、渡辺氏はこれに服せず上告の手続きをとった、これについて渡辺漁業組合長は語る
此問題は各浜とも共通の関係を有する処から万一水産会社の敗訴にでもなつたが最後沿海漁業家に及ぼす影響は蓋し至大なるものがあるだらうと見られ、各方面から注目されてゐる訳であるが、幸ひに勝ちました、上告しやうが何うしやうが自信つきましたから心配はないと思ひます
(『いはらき』昭和11年4月3日付)

史料55 昭和15年9月 久慈町海産物行商商業組合結成報道
久慈海産小売商組 廿四日創立総会開催
久慈町海産物小売商業組合創立総会は廿四日午後一時から開くが、会員百七十余名に上り斯業の向上発展を期すると共に銃後商業の徹底を図る等で、宇佐美松兵衛、五来新五衛門、渡辺惣七氏等準備を急いでいる
(『いはらき』昭和15年9月23日付)

久慈海産組合結成
久慈町海産物行商商業組合では既報の如く創立総会を廿六日挙行し、銃後商業の徹底を図り、斯業の発展向上を期する筈であるが、従来太田町川根屋鮮魚店と取引関係を結び商業してみたが、今回は関係を一切たち純粹の久慈町商業者を一丸となし理想的商業道の確保に努むる筈で、渡辺惣七氏等専らこれが最善方法を研究中である
(『いはらき』昭和15年9月26日付)

史料56 昭和9～12年 久慈町水産業関連工場
[18頁に別掲]

〈別掲〉

史料8 昭和6・8・9年 各種水産業関連団体概要 (『茨城の水産』昭和7・11・15年版)

名 称	設立時期	組合員数			目 的
		昭和6	昭和9	昭和11	
採鮑組合	明治45年1月	20	20	—	稚貝移植、その他繁殖保護
小発動機組合	同上	13	9	—	相互利益増進
鮭漁組合	同上	37	37	—	同上
海産商組合	同上	59	59	—	必需品共同購入、製品保管
久慈製造同業組合	大正6年頃	41	—	—	—
竹輪蒲鉾製造組合	同上	26	—	—	—
出荷組合(鮮魚)	大正10年頃	30	—	—	—
同志会(鮮魚)	大正12年頃	45	—	—	—
久慈海産物商業組合	昭和9年3月5日	—	—	59	—
保証責任 久慈町信用販売 購買利用組合	昭和9年4月20日	—	—	185	—

史料9 昭和11・12・17年 久慈町水産業関連会社

(久慈町「事蹟簿」)

名 称	創 立	主要業務	出資額・資本金 (円)		
			昭和11	昭和12	昭和17
久慈水産株式会社	大正7年5月	鮮魚販売代金立替・金銭貸付	35,000	35,000	—
久慈遠洋漁業合資会社	昭和4年6月	漁業	15,500	15,500	15,500
三和水産合資会社	昭和6年12月	鰯揚繰網漁業	9,000	9,000	9,000
合資会社飛勘商店	昭和10年12月	魚類加工製造・魚貝類販売	—	—	3,500

史料50 明治40年～大正13年 久慈町漁船遭難記録

(久慈町「事蹟簿」)

時 期	場 所	種類	船数	乗組員数	遭難者数
明治40年11月	松岡村高戸沖	転覆	1	9	9
明治42年1月	久慈町地先沖合	転覆	1	3	3
大正元年5月	久慈河口沖合	転覆	1	16	
9月	久慈河口	破壊	1	25	
11月	久慈河口	破壊	1	21	
大正2年11月	千葉県銚子河口	破壊	1	18	8
大正3年4月	鹿島郡沖合	浸水	1	18	3
大正5年10月	久慈河口	破壊	1	17	
12月	久慈河口	破壊	1	19	
大正6年3月	久慈町地先	破壊	1	21	
大正7年2月	久慈河口	坐礁	1	21	
8月	久慈河口	坐礁	1	22	
9月	平潟港	転覆	1	24	3
10月	久慈河口	破壊	1	25	
大正8年2月	久慈河口	坐礁	1	14	
7月	久慈河口	坐礁	3	88	
8月	福島県双葉郡木戸海岸	衝突	1	29	
10月	河原子海岸	転覆	1	21	3
大正11年3月	久慈河口	坐礁	3	62	
4月	久慈河口	坐礁	2	62	
8月	久慈河口	坐礁	2	27	
9月	久慈河口	坐礁	1	34	
11月	久慈河口	破壊	3	106	
12月	久慈河口	破壊	1	36	
大正12年3月	久慈河口	坐礁	3	93	
6月	久慈河口	坐礁	2	37	
大正13年3月	久慈河口	坐礁	1	19	
7月	久慈河口	坐礁	1	31	
11月	久慈河口	坐礁	1	35	

昭和3年	久慈河口	破壊	3	51	
昭和4年	久慈河口	破壊	1	21	
	— 久慈河口	坐礁	4	47	
昭和5年	久慈河口	坐礁	5	58	
昭和6年3月	久慈河口	破壊	1	48	
昭和7年8月	久慈河口	破壊	1	8	
昭和9年10月	久慈河口	坐礁	1	20	
昭和10年10月	多賀郡高戸沖	坐礁・転覆	1	4	1
	— 多賀郡高戸沖	坐礁・波没	1	5	
昭和11年4月	久慈河口	その他	1	21	3
昭和12年4月	久慈港河口	坐洲	1		
	11月 久慈港内	破壊	1	7	2
	12月 久慈河口	沈没	3	16	8
昭和15年12月	久慈河口	破壊	1	5	
昭和16年1月	久慈河口	坐洲	1	10	

史料56 昭和9～12年 久慈町水産業関連工場

(久慈町「事蹟簿」)

工場名	主要事業	事業開始年月	工業主名	一日平均使用職人数			
				昭和9	昭和10	昭和11	昭和12
野上製樽製造工場	生樽製造	大正6年3月	野上卯之太郎	8	8	7	21
桶安製樽製造工場	生樽製造	明治44年2月	照沼安蔵	5	5	5	7
久慈鉄工所	内燃機関修繕	昭和2年4月	坂上寅	1	1	3	5
菊地鉄工所	内燃機関修繕	大正5年2月	菊地松次郎	5	5	5	7
仙半水産物製造工場	鯉節製造業 [1]	明治30年6月	田所音吉 [2]	7	7	7	17
五佐水産物製造工場	鯉節製造業	明治元年	五来佐助 [3]	6	6	6	5
浜屋水産物製造工場	鯉節製造業	明治30年4月	額賀利平	2	6	2	10
山丸水産物製造工場 [4]	鯉節製造業	明治15年	宇佐美松兵衛	7	2	7	
油屋水産物製造工場	鯉節製造業	明治18年6月	渡辺惣七	5	7	5	10
和泉屋水産物製造工場	鯉節製造業	明治34年5月	荒川利三郎	6	5	6	10
茨城製氷株式会社 [5] 久慈工場	製氷	大正15年4月	管理人 荒木進	3	6	3	5
[家印]水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	渡辺藤重				5
稲屋水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	山県季次				2
西半水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	西野半五郎				4
渡助水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	渡辺助三郎				2
[家印]水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	加藤清				2
[家印]水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	渡辺幸次郎				3
[家印]水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	宇佐美義				5
[家印]水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	田所寅蔵				6
山徳水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	山口徳兵衛				4
三吉水産物製造工場 [6]	鯉ノ粕製造	—	三代吉之允				6

山金水産物製造工場 [6]	鰺𩺰粕製造	—	山形源四郎	5
[家印]水産物製造工場 [6]	鰺𩺰粕製造	—	田所亀之介	4
沢屋水産物製造工場 [6]	鰺𩺰粕製造	—	沢昌吉次郎	5
飛勘水産物製造工場 [6]	鰺𩺰粕製造	—	飛田勘太郎	6

註 [1] 仙半以下和泉屋までの水産物製造 6 工場の主要事業は、昭和12～17年の「事蹟簿」では「鰺𩺰粕製造」と変更

[2] 昭和12～17年の「事蹟簿」では「田所啓之助」と変更

[3] 昭和12～17年の「事蹟簿」では「五来新五衛門」と変更

[4] 昭和12～17年の「事蹟簿」からは消失

[5] 昭和12～17年の「事蹟簿」では「日本水産株式会社久慈浜冷凍工場」と改称

[6] 昭和12年の「事蹟簿」に初出

2 久慈浜の漁業統計

史料について

ここに掲げた第1・2・4～6・10表の出典は久慈町役場が作成した「事蹟簿」である。久慈町のそれは他の町村にくらべて残されているほうであるが、明治38～40年、昭

和18～24年までを缺いている。

第3・7～9表の出典である『茨城の水産』は茨城県商工水産課が編集・発行したものである。

表中の — は記載がないことを表わす。

(1) 概 況

第1表 明治41～昭和25年 久慈町漁業戸数・漁業者数の推移

(久慈町「事蹟簿」)

(1) 漁業戸数・漁業者数

	漁業戸数			漁業者						
	本業	副業	合計	本 業			副 業			合計
				男	女	計	男	女	計	
明治41	242	181	423	475	24	499	291	189	480	979
42	243	179	422	480	20	500	285	180	465	965
43	241	182	423	481	18	499	272	172	444	943
44	277	206	483	561	0	561	265	27	292	852
大正 1	282	213	495	578	0	578	281	32	313	891
大正 2 年～ 7 年 項目缺										
8	289	255	544	596	0	596	396	0	396	992
9	292	260	552	636	0	636	450	0	450	1,086
10	320	275	595	663	0	663	462	0	462	1,125
11	586	28	614	682	0	682	494	0	494	1,176
12	587	28	615	693	0	693	501	0	501	1,194
13	589	27	616	705	0	705	509	0	509	1,214
14	470	230	700	652	30	682	290	0	290	972
昭和1	472	231	703	655	25	680	292	0	292	972
2	474	236	710	658	0	658	230	20	250	908

(2) 水産業者数

すべて男

	業 主			被用者		
	本業	副業	計	本業	副業	計
昭和3	60	38	98	705	560	1,265
4	61	36	97	708	580	1,288

5	61	41	102	734	620	1,354
6	62	42	104	740	630	1,370
7	60	44	104	730	591	1,321
8	60	45	105	750	596	1,346

(3) 水産業者数

	漁 撈						製 造						計					
	業 主			被用者			業 主			被用者			業 主			被用者		
	本業	副業	計	本業	副業	計	本業	副業	計	本業	副業	計	本業	副業	計	本業	副業	計
昭和9	224	200	424	965	500	1,465	36	50	86	350	150	500	260	250	510	1,216	650	1,865
10	230	200	430	1,100	500	1,600	36	50	86	360	200	560	266	250	516	1,460	700	2,160
11	34	100	134	1,276	200	1,476	45	45	90	1,390	225	1,615	79	245	224	1,390	425	3,090
12	36	110	146	1,260	150	1,410	46	48	94	1,162	178	1,340	82	158	240	2,422	328	2,750
13	35	120	155	1,258	160	1,418	48	48	96	1,182	180	1,362	83	168	251	2,440	340	2,780
14	33	135	168	1,250	180	1,430	48	50	98	1,181	180	1,361	81	185	266	2,431	365	1,696
15	62	70	132	1,120	20	1,140	59	51	110	337	1,072	1,409	121	121	242	1,457	1,092	2,549
(内女)	0	0	0	0	0	0	0	6	6	160	582	742	0	6	6	160	582	742
16	63	68	131	1,410	21	1,431	54	32	86	172	972	1,144	117	100	217	1,582	993	2,575
(内女)	0	0	0	0	0	0	1	6	7	60	482	542	1	6	7	60	482	542
25	256	0	256	1,356	0	1,356	67	0	67	372	0	372	323	0	323	1,728	0	1,728

第2表 明治41～昭和25年 久慈浜の漁船の推移

(久慈町「事蹟簿」)

(1)

	無動力船				動力船（発動機船）			合計
	5トン (50石) 未満	5～20トン (50～200石)	20トン (200石) 以上	計	20トン (200石) 未満	20トン (200石) 以上	計	
明治41	139	93	82	314	0	0	0	314
42	139	83	82	304	0	0	0	304
43	137	73	79	289	0	0	0	289
44	161	111	76	349	1	0	1	350
大正1	195	111	69	375	8	0	8	383

大正2年から7年までは〔2〕表に掲出

8	130	48	0	178	32	0	32	210
9	123	46	0	169	33	0	33	202
10	120	43	0	163	29	4	33	196
11	118	46	0	164	34	0	34	198
12	112	41	0	153	33	0	33	186
13	114	45	0	159	32	1	33	192
14	112	43	0	155	26	7	33	188
昭和1	98	28	0	126	26	25	51	177
2	95	26	0	121	33	28	61	182

(2)

	日本形船				西洋形船			合計
	3 間未満	3 間以上 5 間未満	5 間以上		帆 船		汽 船	
			発動機船	無動力船	補助機関有	補助機関無		
大正2	166	89	28	33	1	0	0	317
3	174	75	33	27	1	0	0	310
4	167	77	35	27	1	0	0	307
5	143	75	35	0	0	0	0	253
6	131	71	35	0	0	0	0	237
7	135	51	33	0	0	0	0	219

(3)

	無動力船					発動機船						合計
	5トン (50石) 未満	10トン (100石) 未満	20トン (200石) 未満	20トン 以上	計	5トン 未満	10トン 未満	20トン 未満	50トン 未満	50トン 以上	計	
昭和3	95	26	0	0	121	18	6	28	30	0	82	203
4	74	22	0	0	96	18	9	12	27	0	66	162
5	68	20	0	0	88	16	7	14	27	0	64	152
6	70	18	0	0	88	15	6	15	27	0	63	151
7	67	20	0	0	87	16	7	15	27	2	67	154
8	66	21	0	0	87	16	8	14	28	2	68	155
9	168	0	0	0	168	14	15	35	6	1	71	239
10	200	0	0	0	200	14	14	43	14	0	85	285
11	102	0	0	0	102	10	15	45	10	0	80	182
12	85	0	0	0	85	10	15	72	25	0	122	207
13	80	0	0	0	80	—	—	—	—	—	—	—
14	87	0	0	0	87	—	—	—	—	—	—	—
15	91	0	0	0	91	5	18	50	24	0	97	188
16	108	0	0	0	108	10	20	49	25	0	104	212
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	178	0	0	0	178	53	29	25	34	2	143	321

第3表 昭和6・9・14年 久慈町の主要漁業

(『茨城の水産』昭和7・11・15年版)

[註] 漁獲高の()内は、茨城県全体の数値

	時期	経営者数 (人)	件数 (隻)	労働者数 (人)	漁獲高 (円)	魚 種	漁獲順位	漁期・漁場
鮪流網	昭和6	23	23	414	37,370 (573,770)	マグロ・サメ	7 漁村中4位	12月中旬～6月下旬 銚子沖～岩手県沖
	9	—	—	—	—		—	
	14	—	—	—	—		—	
鮪旋網 揚繰網	昭和6	7	7	150	7,000 (54,800)	メジ・カツオ	4—2	5月～7月 銚子沖～宮城県沖

	9 14	休業 [項目缺]	—	—	—		—	
秋刀魚流網	昭和6 9 14	23 15 6	23 15 6	560 195 48	12,370 (311,930) 28,900 (681,986) 16,520 (835,879)	サンマ	7—4 6—5 6—3	9月中旬～12月上旬 北海道～茨城県沖
鰹釣	昭和6 9 14	2 1 6	2 1 6	75 37 48	16,950 (195,390) 15,500 (119,294) 18,350 (70,314)	カツオ	6—5 6—4 4—4	5月上旬～8月下旬 静岡県～青森県
機船底曳網	昭和6 9 14	23 18 3	23 18 3	345 234 35	155,000 (361,540) 117,000 (358,228) 15,000 (531,168)	ヒラメ・カレイ・ギス・ホウボウ・アカジ・トウジン・タコ・ナマコ	6—1 5—1 5—3	10月上旬～6月上旬 茨城・千葉・福島県沖合
鰹揚繰網	昭和6 9 14	7 9 12	7 9 12	250 450 960	143,150 (1,071,200) 321,000 (2,258,763) 2,050,000 (8,433,556)	イワシ・イナダ・スズキ	5—3 6—2 6—2	1月～12月 千葉～福島県沿岸・近海
小型発動機船漁	昭和6 9 14	13 11 18	13 11 18	96 77 148	21,500 (136,270) 28,000 (135,500) 123,000 (257,040)	タイ・ヒラメ・イナダ・マグロ・カツオ	11—3 12—2 11—1	周年 茨城県沿岸
小舟釣漁業	昭和6 9 14	70 80 108	70 80 108	95 120 —	8,400 (237,120) 5,000 (158,870) 30,000 (198,401)	タイ・アジ・サバ・スズキ・ヒラメ	14—9 14—8 14—3	周年 茨城県沿岸
裸体採鮑	昭和6 9 14	20 20 27	20 20 27	— — —	3,900 (39,390) 5,000 (61,950) 4,050 (56,401)	アワビ・ウニ	14—5 14—8 14—4	

(2) 漁 況

第4表 明治41～昭和25年 久慈町漁獲物総額 (久慈町「事蹟簿」)

[註] 本表は第5表(1)(2)(3)の合計額である (単位: 円)

明治41	128,696	大正10	931,140	昭和9	497,166
42	136,059	11	837,359	10	558,555
43	124,709	12	853,106	11	989,121
44	12,499	13	942,496	12	918,874
大正1	167,286	14	947,588	13	—
2	241,888	昭和1	453,852	14	—
3	147,572	2	643,597	15	700,018
4	235,789	3	744,251	16	1,302,231
5	155,340	4	718,966	17	—
6	223,950	5	494,017		
7	356,261	6	691,191	25	—
8	610,819	7	523,615		
9	715,100	8	340,911		

第5表 明治41～昭和25年 久慈町漁獲高 価額

(久慈町「事蹟簿」)

(1) 魚類

(単位: 円)

	イワシ	カツオ	マグロ	タイ	ヒラメ	サンマ	ギス	サケ	その他
明治41	5,396	85,468	5,250	6,320	2,080	1,650	2,010	5,400	6,886
42	5,138	93,810	5,840	8,256	2,184	1,905	2,118	2,730	7,113
43	5,391	52,258	5,136	8,410	2,145	30,030	2,258	5,434	7,504
44	2,885	75,000	4,725	12,000	2,106	3,000	2,324	9,020	8,192
大正1	2,520	30,000	2,600	9,000	2,800	113,900	1,000	6,000	4,928
2	545	29,250	2,800	8,100	4,000	180,000	1,000	1,200	12,146
3	1,125	36,000	2,600	6,000	5,250	80,000	800	1,560	12,217
4	1,025	144,000	2,000	5,400	5,950	70,000	800	1,200	1,685
5	3,600	90,000	1,950	5,120	3,500	43,200	800	2,160	1,110
6	4,650	78,400	23,200	7,590	4,784	62,100	2,880	2,220	34,009
7	3,775	122,400	26,070	9,600	4,320	59,730	53,515	1,196	70,956
8	13,320	162,500	58,050	20,900	4,320	59,730	53,515	1,196	71,344
9	13,545	183,000	70,500	21,600	9,000	106,030	96,480	4,080	78,216
10	17,778	241,920	62,989	22,800	16,400	185,600	0	1,369	160,542
11	0	0	0	24,180	15,096	0	0	480	12,173
12	0	0	0	24,095	15,862	0	0	960	13,044
13	0	0	0	26,130	16,810	0	0	864	14,099
14	0	0	0	29,100	16,380	0	0	3,916	14,064
昭和1	21,520	0	0	25,100	11,890	0	0	2,160	5,392
2	23,030	0	0	24,960	10,260	0	0	1,682	5,368
3	25,750	0	0	29,200	15,000	0	0	3,000	11,520

4	24,200	0	0	28,500	13,920	100,700	0	3,240	12,300
5	42,250	0	0	20,160	7,200	0	0	1,540	8,860
6	93,270	19,380	37,440	19,170	7,400	60,300	0	6,600	185,470
7	87,200	11,340	27,690	19,500	6,460	49,500	0	5,590	149,440
8	—	0	0	19,500	6,460	0	0	5,590	
9	185,857	0	0	10,750	1,650	0	0	7,210	4,851
10	432,520	0	0	10,400	2,040	0	0	1,280	6,700
11	525,790	0	0	7,540	697	250,000	0	300	1,754
12	775,462	0	28,750	26,235	810	0	0	220	46,200
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	578,736	7,621	346	59,470	25,800	11,330	0	120	9,790
16	1,115,021	0	0	136,448	8,578	2,052	0	140	28,280
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—	—	80,000	—

(2) その他の水産物・貝・海草

(久慈町「事蹟簿」)

[註] 昭和9年から「淡水産」の項目が消える

〈単位：円〉

	貝 類		その他の水産物		藻 類	淡水産（サケを除く）
	アワビ	その他	タコ	その他		
明治41	3,500	0	735	38	2,891	360
42	3,400	0	696	41	2,088	390
43	3,700	0	720	39	538	336
44	2,200	2,250	456	0	551	285
大正1	3,000	30	560	0	493	311
2	2,000	0	160	0	392	295
3	1,200	50	80	0	400	290
4	1,650	0	240	125	1,300	414
5	1,910	0	405	125	910	550
6	1,870	0	462	252	996	537
7	2,160	0	630	234	1,015	660
8	2,160	0	630	234	1,015	660
9	2,187	0	1,314	400	1,048	1,300
10	2,936	0	0	0	2,121	1,835
11	5,940	0	0	0	2,112	1,378
12	5,776	0	0	0	2,186	1,339
13	5,000	0	0	0	2,279	1,509
14	4,400	0	0	0	2,010	1,382
昭和1	4,080	0	0	168	2,080	4,092
2	4,620	0	0	520	2,031	1,098

3	5,000	0	50,000	300	2,031	1,050
4	4,480	0	51,000	270	1,736	1,120
5	3,220	0	31,500	0	1,302	400
6	3,450	0	28,000	0	1,041	3,880
7	3,520	0	21,450	0	865	380
8	3,520	0	21,450	0	865	3,180
9	1,440	0	10,780	26,540	1,635	—
10	3,400	0	14,400	33,800	2,135	—
11	3,000	0	1,020	1,300	3,720	—
12	2,400	0	7,360	8,830	2,400	—
13	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—
15	2,736	0	540	1,277	2,252	—
16	4,788	0	672	985	5,267	—
17	—	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—

(3) 遠洋漁業

(久慈町「事蹟簿」)

[註] 上記(1) 魚類の統計にある数値と同じものは、重複と考えられるので「0」とした

〈単位：円〉

	イワシ	カツオ	マグロ	サンマ	ヒラメ・カレイ	その他	合計
明治41	0	600	0	0	0	0	600
42	0	350	0	0	0	0	350
43	0	810	0	0	0	0	810
44							
大正1	0	0	0	0	0	0	0

大正2年から7年は「遠洋漁業」の項目が消える

8	12,775	122,400	26,070	0	0	0	161,245
9	0	0	0	0	0	126,400	126,400
10	0	0	0	0	0	213,850	213,850
11	15,060	276,980	58,380	167,100	0	258,480	776,000
12	16,006	283,725	60,845	149,408	0	279,800	789,784
13	16,940	270,000	60,060	203,205	0	325,600	875,805
14	16,695	267,665	60,800	201,376	0	329,800	876,336
昭和1	2,940	193,680	0	183,750	0	0	380,370
2	28,560	16,928	0	188,240	0	336,300	570,028
3	62,400	90,000	70,000	99,000	0	280,000	601,400
4	63,600	86,700	64,800	100,700	0	262,400	578,200
5	43,400	25,925	37,700	74,400	0	196,160	377,585
6	50,240	0	0	0	0	179,000	229,240
7	0	0	0	0	0	144,200	144,200

8	62,080	11,786	19,760	55,800	0	160,400	309,826
9	0	1,428	0	200,845	0	44,180	246,453
10	0	0	0	28,600	0	23,280	51,880
11	0	0	150,000	0	22,000	12,000	184,000
12	0	0	0	22,607	0	0	22,607
13	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—	—	—
17	—	—	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—	—

第6表 明治41～昭和25年 久慈町漁獲高数量 (久慈町「事蹟簿」)
(1) 魚類 <単位：貫>

	イワシ	カツオ	マグロ	タイ	ヒラメ	サンマ	ギス	サケ
明治41	38,360	185,800	3,500	3,950	3,200	55,000	3,350	4,500
42	34,010	177,000	3,650	5,160	2,800	6,350	3,850	2,100
43	34,980	98,600	3,210	5,260	2,750	85,800	4,020	4,180
44	15,100	150,000	3,150	8,000	2,700	10,000	4,150	8,200
大正1	12,500	60,000	2,000	6,000	4,000	670,000	2,500	5,000
2	2,500	45,000	2,000	4,500	5,000	1,000,000	2,500	1,000
3	4,500	60,000	2,000	4,000	7,500	400,000	2,000	1,300
4	3,500	480,000	2,000	4,500	8,500	280,000	2,000	1,000
5	7,800	180,000	1,500	3,200	3,500	135,000	2,000	1,350
6	15,500	112,000	11,600	3,300	3,680	138,000	3,600	1,480
7	10,760	136,000	8,960	3,200	2,400	108,600	48,650	520
8	33,300	125,000	13,500	3,800	2,400	108,600	48,650	520
9	30,100	122,000	14,100	3,600	3,000	92,200	53,600	1,360
10	29,630	151,200	10,860	3,800	4,100	185,500	0	370
11	0	0	0	3,900	4,080	0	0	120
12	0	0	0	3,950	4,120	0	0	240
13	0	0	0	4,020	4,100	0	0	180
14	0	0	0	4,850	4,200	0	0	890
昭和1	53,800	0	0	5,020	4,100	0	0	720
2	65,800	0	0	5,200	3,800	0	0	580
3	103,000	0	0	7,300	5,000	0	0	1,200
4	110,000	0	0	7,500	4,800	190,000	0	1,800
5	325,000	0	0	7,200	3,600	0	0	1,100
6	959,000	22,800	28,800	7,100	3,700	201,000	0	5,500
7	997,000	13,500	21,300	7,800	3,400	165,000	0	4,300

8	372,000	0	0	7,800	3,400	0	0	4,300
9	3,097,616	0	0	4,300	1,000	0	0	5,150
10	4,325,200	0	0	4,000	1,200	0	0	800
11	5,537,900	0	0	2,900	410	600,000	0	150
12	5,965,780	0	28,750	7,950	270	0	0	100
13								
14								
15	2,630,620	5,220	216	15,650	8,600	10,300	0	40
16	3,378,853	0	0	20,992	1,637	1,251	0	40
17								
25	21,259	55,806	21,066	12,104	7,365	305,672	0	50

(2) その他の水産物・貝

(3) 遠洋漁業

〈単位：貫〉

〈単位：貫〉

	貝類	その他
	アワビ	タコ
明治41	3,500	1,050
42	3,400	1,160
43	3,700	1,200
44	2,200	760
大正1	3,000	800
2	2,000	200
3	1,000	100
4	1,500	300
5	1,800	450
6	1,700	420
7	1,200	450
8	1,200	450
9	810	730
10	1,640	0
11	1,650	0
12	1,520	0
13	1,250	0
14	1,100	0
昭和1	1,200	0
2	1,400	0
3	1,500	25,000
4	1,600	25,000
5	1,400	21,000

	イワシ	カツオ	マグロ	サンマ	ヒラメ・カレイ
明治41	0	—	0	0	0
42	0	—	0	0	0
43	0	—	0	0	0
44	0	0	0	0	0
大正1	0	0	0	0	0
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8	36,500	136,000	8,690	0	0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	30,200	125,900	13,900	253,500	0
12	30,200	126,100	14,150	266,800	0
13	30,800	112,500	14,300	356,500	0
14	31,500	113,900	15,200	359,600	0
昭和1	9,800	107,600	0	367,500	0
2	102,000	105,800	0	362,000	0
3	520,000	50,000	25,000	180,000	0
4	530,000	51,000	24,000	190,000	0
5	620,000	30,500	29,000	248,000	0

6	1,500	20,000	6	628,000	0	0	0	0
7	1,600	16,500	7	0	0	0	0	0
8	1,600	16,500	8	776,000	14,200	15,200	186,000	0
9	800	9,800	9	0	4,080	0	180,586	0
10	1,700	12,000	10	0	0	0	57,200	0
11	1,500	850	11	0	0	15,000	0	14,650
12	1,200	3,200	12	0	0	0	48,200	0
13			13	—	—	—	—	—
14			14	—	—	—	—	—
15	720	200	15	—	—	—	—	—
16	630	120	16	—	—	—	—	—
17			17	—	—	—	—	—
25	255	2,154	25	—	—	—	—	—

〔註〕大正2～7年は「遠洋漁業」の項目が消える

(1) の漁獲物統計にある数値と同じ数値は重複と考え「0」とした

(3) 流通および加工

第7表 昭和6・9・14年 久慈浜活・鮮魚貝類の移出 (『茨城の水産』昭和7・11・15年版)

	鮮魚商戸数 (戸)	従業員数 (人)	主な魚介類	移出高 (円)
昭和6	15	150	タイ・サンマ・カツオ・マグロ・イワシ	50,000
9	5	10	イワシ・マグロ・カツオ・サンマ・タイ	77,500
14	13	46	タイ・イワシ・カツオ・サンマ・アワビ	222,800

第8表 昭和6・9・14年 久慈町主要水産加工品 (『茨城の水産』昭和7・11・15年版)

	種 類	製造戸数 (戸)	従業員数 (人)	数 量 (貫)	金 額 (円)	茨城県金額 (円)	産額順位
昭和6	鯉節	10	100	15,500	62,500	285,400	9 漁村中2位
	鮪節	10	100	17,500	78,750	120,550	9—1
	鯖節	5	50	88,000	8,000	8,720	3—1
	煮乾鰯	40	230	147,000	51,450	308,460	8—3
	塩乾鰯 (目刺・頬通)	46	520	23,000	5,750	215,830	5—4
	開さんま	20	55	—	(例年5,000)		
	鰯桜乾	40	240	16,500	15,700	161,750	7—2
	蒲鉾・竹輪・薩摩揚げ	20	83	35,000	28,000	158,200	4—3
	塩辛	10	50	1,300	1,170	14,890	8—4
	鰯〆粕	40	440	48,000	168,000	972,709	8—2
	雑粕	30	180	4,500俵	14,500	31,310	9—1
	鰯油	40	440	11000缶	6,600	36,000	7—3

昭和 9	鯉節	9	135	10,000	50,000	134,250	8 — 1
	煮乾鰺	47	500	1,050,000	600,000	1,258,471	7 — 1
	頬通鰺	47	500	30,000	12,000	297,150	6 — 5
	鰺桜乾	15	150	24,000	24,000	90,780	6 — 2
	竹輪	15	150	3,300	9,900	18,900	2 — 1
	薩摩揚	15	150	20,000箱	40,000	46,100	3 — 1
	削り節	6	30	22,500	15,000	44,600	5 — 2
	鰺搾粕	45	500	70,000	322,000	1,720,998	10 — 2
	鰺油	45	500	35,000	87,500	420,724	8 — 2
昭和14	鯉節	1	5	1,000	8,000	115,700	8 — 4
	鯖節	21	63	780	2,340	31,597	8 — 6
	なまり節	1	4	500	1,300	37,570	5 — 5
	煮乾鰺	46	546	311,810	233,858	2,584,503	10 — 2
	塩乾鰺 (目刺・頬通・丸乾)	40	400	29,300	35,160	2,153,869	10 — 6
	塩漬鰺	10	60	30,000	14,000	215,000	5 — 4
	鰺桜乾	6	60	3,080	10,000	196,818	7 — 4
	削節	6	42	25,000	75,000	165,640	5 — 2
	鰺搾粕	46	546	21,762	285,073	2,565,754	15 — 4
	鰺油	46	546	25,775	164,084	1,041,611	13 — 3

第 9 表 昭和 6 ・ 9 ・ 14 年 久慈町及び市内その他主要漁村の水産加工
(『茨城の水産』昭和7・11・15年版)

		昭和 6	昭和 9	昭和14
久慈町	製造戸数 (戸)	46	47	48
	従業員数 (人)	550	510	946
	主なる製品	鯉節・煮乾鰺・鰺桜乾・竹輪・さつま揚・鰺搾粕・魚油	煮乾鰺・鰺搾粕・魚油・鯉節・さつま揚・桜干	搾粕・煮乾鰺・魚油・削節・塩乾鰺・塩漬鰺・桜乾鰺
	生産高 (円)	442,620	1,160,400	829,015
茨城県	生産高 (円)	2,475,870	4,786,379	11,186,409
波崎		649,390	1,395,389	2,524,641
湊		458,400	602,709	1,722,215
坂上 (水木)		4,350	3,756	44,508
会瀬		1,720	—	—
豊浦 (川尻)		37,800	41,600	101,767
大津		498,200	827,826	3,766,794
平潟		144,900	84,900	188,102

〔註〕日立市域の河原子は統計に表れない。水産加工業がないのであろう

第10表 明治41年～昭和16年 久慈町水産製造物価額の推移

(久慈町「事蹟簿」)

〈単位：円〉

	食料							肥料	魚油	肥料・ 魚油計	合計
	鰯節	田作	塩乾 イワシ	塩乾 サンマ	煮乾 イワシ	その他	食料計	内搾粕 イワシ			
明治41	33,250	5,450	120	700	315	1,965	41,800	52	8	60	41,860
42	50,750	7,852	304	1,120	720	3,868	64,614	156	45	201	64,815
43	37,800	4,838	405	11,440	399	2,369	57,251	5,688	53	5,741	62,992
44	63,460	3,296	142	1,360	178	2,504	70,940	133	30	478	71,418
大正1	11,400	1,800	130	150,000	1,308	531	165,169	250	25	575	165,744
2	15,200	500	57	1,600	540	121	18,018	150	24	324	18,342
3	20,800	1,600	0	0	960	1,425	24,785	2,250	100	2,350	27,135
4	65,000	900	0	600	1,350	5,900	73,750	1,440	250	6,450	80,200
5	26,000	960	0	1,920	500	675	30,055	0	314	5,014	35,069
6	37,440	874	0	10,125	572	1,161	50,172	1,040	1,187	8,699	58,871
7	57,820	2,190	0	11,328	1,008	1,840	74,186	1,008	1,735	10,237	84,423
8	57,820	2,190	0	11,328	1,008	1,840	74,186	1,008	1,735	10,237	84,423
9	128,380	7,800	0	33,440	2,366	6,975	178,961	2,530	2,750	16,395	195,356
10	220,000	11,520	0	49,220	4,004	9,610	294,354	2,400	6,648	24,559	318,913
11	231,400	12,750	0	38,790	3,500	41,060	327,500	2,100	3,370	24,020	351,520
12	252,000	13,260	0	37,440	5,400	52,535	360,635	2,660	3,680	26,916	387,551
13	226,200	15,080	0	48,594	5,890	50,420	346,184	3,010	4,838	41,583	387,767
14	222,952	15,750	0	52,910	6,090	58,699	356,401	3,386	5,532	42,617	399,018
昭和1	172,380	20,880	497	0	5,700	107,623	307,080	4,785	4,468	28,853	335,933
2	160,720	23,760	544	0	7,030	121,994	314,048	4,900	4,662	27,157	341,205
3	45,000	12,000	2,900	—	12,880	76,350	149,130	180,000	7,750	192,950	342,080
4	41,400	20,250	3,402	—	19,740	81,170	165,962	159,000	8,150	173,562	339,524
5	35,340	24,700	2,800	—	22,500	74,720	160,060	93,860	6,800	105,236	265,296
6	34,000	25,200	2,772	—	22,176	78,925	163,073	92,000	7,200	103,600	266,673
7	35,100	35,100	2,924	—	24,090	74,389	171,603	93,000	7,760	103,704	275,307
8	35,100	35,100	2,924	—	24,090	74,339	171,553	93,000	7,760	103,704	275,257
9	25,000	0	15,000	—	56,357	121,186	217,543	241,574	17,360	260,356	477,899
10	8,000	0	2,400	—	598,500	85,420	694,320	302,319	179,082	483,021	1,177,341
11	2,500	0	2,400	—	52,500	298,372	355,772	604,061	258,062	862,423	1,218,195
12	0	0	0	—	89,257	156,674	245,931	490,480	303,473	794,575	1,040,506
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	0	0	20,570	—	422,250	89,179	531,999	151,207	31,924	188,156	720,155
16	0	0	527,527	—	406,260	133,658	1,067,445	242,312	249,260	491,572	1,559,017

史料 久慈浜の漁業

日立の水産歴史篇 3

2021年12月15日発行 編集 島崎和夫

日立市の歴史点描